

平成三十年一月十五日発行

F A R 会  
創刊五十号  
記念誌



*Fellowship for the Advancement  
of Radiology*



FAR 会 五十号記念誌編集委員会



# 目 次

情報誌50号発刊を祝して

会 長 川上壽昭 P1

FAR会情報誌50号記念誌発刊を祝して

公益社団法人 日本放射線技術学会 代 表 理 事 小倉明夫 P4

FAR会誌発刊50号を記念して

名 誉 会 長 山田勝彦 P5

FAR会情報誌50号記念誌発刊に寄せて「FAR会の発足と発展に尽くして頂いた先輩と故人に感謝して」

副 会 長 速水昭雄 P6

年を重ねて思うこの頃

同 平林久枝

FAR会情報誌50号に感謝して

同 藤田 透

FAR会情報誌 通巻第50号発行によせて

同 山 哲男

FAR会情報誌のページを追って

顧 問 前越 久

世話人寄稿

雑 感

世 話 人 今井方丈 P10

韓国との交流について

同 江口陽一

FAR会情報誌50号を記念して思うこと

同 小水 満

50号記念誌に寄せて

同 草山泰子 P14

FAR会 50号記念誌 発刊に寄せて～ インターナショナル・セッション回顧録 ～

同 佐藤幸光

前越 久先生と木村千明先生

同 富吉 司

「梅垣先生に集う会」の思い出(前編)

同 平野浩志 P17

記憶・記録とは???

同 藤田卓造

木村千明先生と私そしてFAR会

同 堀田勝平

FAR会そぞろ歩き(人との出会い)

同 前田幸一

第46回秋季学術大会 「震災から7年、復興と放射線技術学」 日本三景松島と震災復興視察の旅

同 梁川 功

会員寄稿

高速バス通勤雑感

会 員 加賀勇治 P23

FAR会入会時のエピソード

同 漢那憲聖

50号記念誌に寄せて

同 小松明夫

緩やかに時が移りゆく毎日が・・・時に乱れるトキも	会 員	遠山坦彦	P26
退職後には何をすべきか？人生最後の努力への提案	同	土井邦雄	
「50号記念誌に寄せて」学会委員拝命のころ	同	西谷源展	
カラー化	同	福西勝司	
「50号記念誌に寄せて」	同	松原 馨	P30
「50号記念誌に寄せて：私もpay it foreword（恩送り）することを誓います！」	同	宮地利明	
聖護院御殿壮花見の宴	同	山本義憲	
第74回総会学術大会へのお誘い			
	第74回総会学術大会大会長	錦 成郎	P33
2018 FAR会懇親の夕べ	代 表 幹 事	江島光弘	
2017 秋のFAR会報告	代表幹事代行	神澤良明	
総務委員会報告			P37
編集委員会報告			P40
秋季学術大会報告			
	第45回秋期学術大会実行委員長	隅田博臣	P41
編集委員会寄稿			
情報誌編集の思い出「創刊号の頃」	顧 問	小川敬壽	P42
編集委員長を引き継いでみて	同	山田和美	
PCにて「三交会」を検索してみると！	委 員 長	森 克彦	
情報誌編集の思い出	副 委 員 長	石井 勉	
FAR会員の情報誌	委 員	江島光弘	
FAR会情報誌の編集に携わって	同	橋本廣信	
情報誌FAR 50号発行に寄せて	JSRT事務局長	宮高 睦	P51
FAR会発足からの軌跡	総 務 委 員 会		P53
FAR会「規約・細則」集			P62
情報誌創刊からの軌跡	編 集 委 員 会		P67
編集の小窓・他	編 集 委 員		P71

## 情報誌 50 号発刊を祝して

会長 川上壽昭



年頭にあたり、会員の皆様方には健やかに初春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

平成 13 年 4 月に神戸で発足し 17 年目を迎えることになりました FAR 会（Fellowship for the Advancement of Radiology）も、初代橋本 宏会長、二代山田勝彦会長の統率力と献身的なご尽力と併せて、会員お一人お一人の深いご理解とご協力のお陰を持ちまして、順調に発展を遂げ今日を迎えることができました。

また、会員相互の情報交換の柱であります「情報誌」は平成 13 年 9 月 20 日に創刊号が発刊されて以来、初代小川敬壽編集委員長、二代山田和美編集委員長、そして、現在の森 克彦編集委員長と引き継がれ、ここに 50 号記念誌を発刊する運びとなりましたこと、まことに意義深く喜びにたえないところであります。

## FAR 会誕生までの歴史（経緯）について

この度の 50 号記念誌の発行にあたり改めて FAR 会発足までの歴史（経緯）を顧みます。世の中どの組織や団体においても、現役を退いた後、仲間どうしの交流を続けながら、生きがいや楽しみにつながる OB 会や同門会が持たれます。つまり、同じ企業や組織で苦労を共にして働いてきた仲間が戦友としての絆を深める一方で、当時の企業や組織を応援する強力なサポーターとして、団結を促す役割を担ったものだろうと思っています。

本学会におきましても、昭和 17 年（1942 年）に叡智を結集されて学会設立に奔走された多くの先達の諸先輩方が、やがては職場を退かれ、学会役員からも退役されて音信も途絶えがちとなったことから、学会開催を良い機会として昼食を共にされ、お互いの近況報告や当時の懐かしい話に華を咲かされたのが OB 会の始まりのようです。当初は明治生まれの先生方ばかりの集まりでありましたので名称を「明治会」として発足したようです。やがて、大正生まれの先生方も参加されるようになったようですが会の名称が「明治・大正会」となったかどうかは定かではありません。

細江健三先生は「昔の苦しい波乱の学会運営を顧みて、明治会は誠に心の和む楽しい会であった」と述懐なさっていたとの記録が残されていました。また、会員の近況報告の手段として手書きの「交友録」も残されていました。その後、学会を開催する年度会長も加わり、明治・大正・学会長（実行委員長）から構成される OB 会となり、名称も「三交会」として新たなスタートを切り、学会開催時に毎年開催されてきたようですが、私の不確かな記憶では、1997 年（平成 9 年）に奈良市で開催されました第 25 回秋季学術大会（佐藤紘市大会長）の時ではなかったかと思っています。（確かではありませんので、ご存じ方お教え下さい）

丁度、この頃から学会事業は大幅に拡大し、学会長も専任会長制度が導入され、年度総会は、総会開催大会長と実行委員長が執行する形態が執られるようになりました。これに伴い三交会はごく一部の役員経歴者のみの 0B 会となってしまったようです。その後、3~4 年経った 2000 年頃になって、幅広い会員層をもった 0B 会を作ってはどうかという声が高まり、四宮恵次先生を中心に関東地区、中部地区、関西地区から数名を選出して、原則として 60 歳以上で学会運営に何らかの関与をした方々を發起人として

幅広い会員層をめざしたOB会、すなわち「FAR会」が、平成13年(2001年)4月に発足する運びとなり今日に至った次第であります。「明治会」「三交会」に関する記録が乏しく、正確性に欠ける報告となりましたが、いずれにしても「明治会・三交会」の精神はFAR会に引き継がれており、大変喜ばしいことであると同時に次世代へ引き継いでいかなければならないものと思っています。

#### **FAR会の名称について**

平成13年4月、初めての世話人会で先ず話題となりましたのが会の名前を決めることでありました。会員お一人お一人の想いもあり、当初は“放射線医学の進歩発展を願う会”RFP会(Radiological Friendship Promotion)との案もありましたが、名は体を表すとの諺に則り「会員の親睦と学会の発展を願う仲間たち」の意味を込めて“放射線医学の進歩発展を目指す仲間たち”に相応しい「FAR会」に落ち着きました。

また、シンボルマークの制定にあたっては「FAR会設立10周年記念事業」の中で、「シンボルマークの会員公募」を行ったところ4人の方から10点の応募があり、この中から“FAR会の力強さ・太いつながり・絆”との意味がこめられた前越久先生の作品が選ばれ、現在情報誌の表紙、春秋の懇親会の場で活用されています。

#### **FAR会の事業について**

FAR会は「OB同士が楽しいことを一緒に共有できる場であること」、「現役生のパートナーの場であること」、「OB会を通じて多くの人との触れ合いの場になること」を目的として「春秋2回の懇親会の開催」と「年3回の情報誌発刊」を行っています。春の懇親会は4月に開催されますJSRTの総会学術大会に合わせて会場(横浜市)近くのお店を借りて横浜の美味しい料理を肴に「楽しく、懐かしい語らいの宴」を開催し、秋の懇親会では学術大会が地方で開催されることもあって、その地域の名所旧跡を巡る1泊旅行を計画し、時には温泉に浸かりながら、美味しい地元の酒を酌み交わし、夜の更けるまで積もる話に花を咲かし旧交を温める楽しい旅を行っています。

一方、年3回発行する情報誌につきましては、FAR会の活動状況や行事予定、JSRTの各種開催予定のお知らせ、更にテーマを決めて会員からの原稿を募集する特集や数回にわたる連載ものの他、絵画、写真、書、旅行記などの趣味の欄など発刊号数を重ねるごとに内容の充実も図られ、お互いの近況報告や情報交換できる場として貴重な役割を果たしていると思っています。

ここで、49号までの情報誌を大まかに振り返ってみますと、創刊号では、先ず会員寄稿に始まり、第4号では「会員の作品」として、俳句・写真・絵などが紹介され、その後も寄稿・投稿、特集、会員のリレー方式によるご当地自慢の連載等々常に斬新な企画が盛り込まれるようになり、号数を増すごとに内容の充実が図られ楽しみが増えていますことは、大変喜ばしいことであります。改めて歴代編集委員長の情熱の賜物として厚くお礼申し上げますと共に、情報誌の印刷、発送に多大なご尽力を頂いております事務局職員の方、FAR会総務委員の方々に、この場を借りて改めて深く感謝申し上げます。

情報誌の中で、私が地元でありますだけに強く印象に残っていますのは、第10号から第22号まで掲載されました弘法大師(空海)の足跡を訪ねる旅「四国八十八ヶ所霊場巡り」の紀行文であります。足腰の衰えない内に、遠山坦彦先生の貴重な体験談を大いに参考にして、「四国八十八ヶ所霊場巡り」ができればと思っていますが、未だ実現していません。(決して懺悔のお遍路ではありませんので、誤解なきように)

FAR会は、今までにお名前は聞いていたが逢うのは始めてという方との出逢いの場として、世代を超え



た新鮮な場所であり、また、学会で口角泡を飛ばしながら議論を交わした懐かしい仲間と久しぶりに顔を逢わせ、お互いの無事を喜び旧交が温めあえる貴重な場となっています。亀井勝一郎という作家は「愛の無常について」の中で、人の出逢いを「邂逅<sup>かいこう</sup>」と云って「...いついかなるとき、いかなる偶然によって、誰と出会ったか。そこでどんな影響を受け、どんな友情が、あるいは恋愛が成立したか。そういう経験をもつ人は、振り返って運命の不思議さに驚くであります。それによって一生が決定する場合も少なくない。邂逅こそ人生の重大事です」と述べていますように、「FAR 会」はまさに「邂逅」の場があります。それだけに、FAR 会の発展と併せて「明治会」「三交会」と受け継がれてきた JSRT の貴重な財産だろうと思っています。しかし、ここ数年の FAR 会を振り返ってみますと、新たな入会者も少なく会員数は頭打ちになっていること、懇親会の参加者も 20 名も確保できない状況であること等々の現実を踏まえて、俯瞰的視点からの見直しも必要な時期ではなからうかと思っています。FAR 会の継続・発展に努めて参る所存ではありますが、会員お一人お一人におかれましては建設的なご意見・ご示唆を頂きますようお願い申し上げます。

＊FAR 会の前身であります「明治会」、「三交会」の歴史を辿るにあたり、貴重な情報と資料をご提供頂きました大先輩であります遠藤俊夫先生、学会の生き字引であります清水久子女史に厚くお礼を申し上げます。また、貴重な記録を残して頂きました西村信男先生に深く感謝を申し上げます。





FAR 会発足記念 平成 14 年 4 月 7 日 於三宮ターミナルホテル

## 《ご祝辞》

### FAR 会情報誌 50 号記念誌発刊を祝して

公益社団法人 日本放射線技術学会  
代表理事 小倉明夫



FAR 会の第 50 号記念情報誌の発刊、誠におめでとうございます。

FAR 会は 2001 年 4 月に発足し、1 年に 3 回の情報誌を発刊されて、いよいよ今年平成 30 年で 50 回記念誌となります。情報誌の編集・発刊は大変な作業と推察いたしますが、学会役員をされていたころのパワーをそのまま編集作業に注がれたのであろうと考えますと、十分納得できるところであります。

さて、本学会も、今年平成 30 年に 75 周年を迎えます。長い歴史の中で、諸先輩が作り上げてこられた技術学会は、留まることを知らず発展し続けています。会員数も微増しながら、いよいよ 18,000 人に近づいてまいりました。また、学会の国際化、学際化にも執行部全員でとりくみ、1 歩ずつ成果を挙げてきているところでございます。一昨年は、JRC 大会のスライドを 100%英語化しましたし、海外との学術協定も、中国、韓国、タイ、台湾の 4 か国と締結し、距離的にも近い国際学会への会員の学会発表の機会を増やすことができました。

また、国内においても、昨年、日本循環器学会と学術協定を締結し、互いの学術大会で会員同士のシンポジウムを開催することになりました。放射線科医だけでなく循環器内科医とも学術的討論ができることは放射線技術学の進歩をより助長するものと確信しております。

また特筆すべきことは、本学会の冠である放射線技術学が日本学術振興会科学研究費の項目に登録されたことです。過去には、技術学というものは学問では無いなどと言われてきた経緯があったと先輩方からお聞きしていましたが、今年度の科研費の項目で初めて、放射線技術学がリストアップされました。放射線医療に関する項目は、小区分として「放射線科学関連」のみであり、その下に、画像診断学、放射線治療学、放射線基礎医学、放射線技術学が挙がっています。すなわち、放射線医学関連の項目は 4 項目のみで、その 1 つが放射線技術学であることは賞賛すべきことであり、放射線技術学が学問として完全に市民権を得た証と言えます。これもひとえに、本学会を創ってこられた諸先輩の努力の賜物であ



り、結晶であると考えています。あらためて、我々会員は、FAR 会を中心とする諸先輩方に感謝申し上げる次第であります。

堅い話ばかりでもつまりませんので、私が FAR 会に参加させていただいた 2011 年の淡路島ツアーの写真を掲載させていただきます。懐かしいメンバーの中で私の親父も参加させていただきました。親父もいよいよ弱ってまいりましたが、FAR 会の先生方がいつまで



もお元気で過ごして頂けることを祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。50 号記念誌発刊、誠におめでとうございます。

### FAR 会誌発刊 50 号を記念して

名誉会長 山田勝彦



この度、FAR 会誌が発刊されて 50 号になろうとは思いますが、FAR 会（Fellowship for the Advancement of Radiology）は平成 13 年 4 月 5 日、神戸市で開催されました日本放射線技術学会総会におきまして、故 橋本 宏先生の発案により発会致しました。日本放射線技術学会の執行役員として活躍された方々は沢山おられますが、退任された後は学会との結びつきも薄くなり、学会からの情報も一般会員と同じように会誌などを通じてのみとなってきます。そこで学会役員を務められた方々の OB 会として発会したのが FAR 会です。FAR の名称は名古屋市の前越先生による命名と記憶していますが間違っていればお許し下さい。

小生は、確か FAR 会の第 1 回世話人を務めさせて頂いたと記憶していますが、学会の長い歴史の中で、苦楽を共にした役員の方々の顔が浮かんできます。京都市円町の小さな事務局でいろんな会合に出席させて頂きましたが、その前は京都大学放射線科事務局の小さな片隅で、今は亡き仲川庄次先生からのお誘いを頂き、学会事務局のお手伝いをさせて頂いたのが、この学会でのお仕事の最初でした。最初は何も判らず仲川先生の言われるままのお手伝いをさせて頂いていましたが、事務局が京都大学から外部の事務所に移転しましたが、その場所は小生が勤めていました「レントゲン技術専修学校」のごく近くだったものですから、何かと事務局のお手伝いをせざるを得なくなっていました。

どこの会にも OB 会はありますが、やはり永年にわたり同じお仕事をしてきた者が、過去を振り返り、

当時のことを思い出しながら語り合えることは実に楽しく、共に苦労した昔の事が如実に思い出され、そのお話はいつまでも尽きることはないと思います。そういう意味で FAR 会が、技術学会の役員、委員を務められた方々が、過去の学会での苦労を思い出しながら語り合える場として設けられたことは、素晴らしいことだと思います。小生も最近の学会への出席はこのように昔、苦労した方々と語り合えることを大きな楽しみにして、学会出席しています。そして、その私達の活動が現在の役委員の方々に知って頂ければ、今後の学会活動の中でも何らかの大きな糧となるのではないのでしょうか。毎年の学会総会で FAR 会が開催されていますが、昔の学会で共に多くの苦労を重ねた役員、委員の方々と、懐かしくお会いできることは実に大きな楽しみの一つでもあります。どうかこの FAR 会が、皆様のお世話でいつまでも続いていくことを心より願っています。

末尾になりましたが、FAR 会誌をいつも発行して頂いています編集委員会の方々に厚くお礼申し上げますと共に、FAR 会が益々発展していくことを心よりお祈りして、ご挨拶とさせていただきます。

### FAR 会情報誌 50 号記念誌発刊に寄せて

#### 「FAR 会の発足と発展に尽くして頂いた先輩と故人に感謝して」

副会長 速水昭雄



FAR 会は技術学会で貢献されてきた仲間の交流の場として以前あった三交会の解散後、技術学会 OB の出会いと交流の必要性を強く望まれて、新たに発足したのが 17 年前（平成 13 年 4 月）のことです。当時四宮さんの情熱に共感された橋本先生や小川先生達の献身的な努力があり、この主旨に賛同して下さる会員の協力により FAR 会が発足し、その後現在まで継続・発展してきたものと考えています。

四宮さんは放射線器機工業会の役員の立場で技術学会の役員として、橋本先生との JIS 活動と技術学会の活動に貢献され、その繋がりで工業会のメンバーもいれた技術学会の OB を中心に FAR 会の発足と運営に情熱を持ってご活躍いただきました。そのお二人も一昨年（平成 28 年）に逝去されたのは大変残念なことであります。

FAR 会の活動の基盤は技術学会総会と秋季大会時の懇親会と会誌の発行であります。その FAR 会誌が今年で 50 回の発行を迎え、今までの雑誌編集と FAR 会活動にご尽力いただいた先生方と学会事務局への感謝を申し上げますと共に今後の FAR 会への期待を込めて私のメッセージを書かせて頂きます。

FAR 会誌の主たる目的は会員からの情報交換であり、会員に広く原稿を集め、編集する作業は歴代の編集長の情熱が無くては期限内に発行することは出来得ないことであり、50 回を迎えるまでには大変なご苦労があったことと推測致します。限られた予算の中での発行はボランティア的な活動であり、編集スタッフと学会事務局員の皆様のご尽力が無ければ出来得ないことであります。特に最初の編集責任者として小川先生が築かれた編集発行方針は 50 回の今も継続されてきたのは、小川先生の功績であり大変感謝すべきことであります。改めて今までの会誌を見ますと、忘れていたその時々記憶が蘇り、情報記録の大切さを改めて感じております。

特に秋季大会は毎年全国の地方都市で開催され、その時の地元の世話人に企画していただいた観光旅行は普段知り得ないその土地の歴史や観光ができることの楽しみは素晴らしいことであり、この感動をもう少し多くの会員にも是非味わっていただければと思っております。

FAR 会の秋季大会時の一泊旅行の参加者が少ないのが残念ではありますが、そこでの懇親会や 2 次会および部屋での交流は、普段ではお聞きできない本音の話しができ、表面的な学会での付き合いではないその人の人生を知ることの新しい発見と感動があります。

学会に参加しないと FAR 会にも参加しづらくなりますが、何かのチャンスがあれば是非この秋季大会時の FAR 会懇親旅行に参加いただくことを期待いたしております。

FAR 会のメンバーの殆どは現役をリタイアもしくは役職を後輩に譲り、第 2 の人生を楽しんでおられる方々であると思います。今や日本は世界でもトップの高齢化社会を迎え、我々はその一員として高齢者の仲間としての生き方を体験しているわけでありますが、出来れば健康寿命を伸ばして健やかな生き方をしたいと考えます。それだけに私は FAR 会に参加される皆さんに高齢化社会での人生の楽しみ方や生き方を教わりたいと切望いたしております。

### 年を重ねて思うこの頃

副会長 平林久枝



FAR 会誌 50 号記念誌の発刊おめでとうございます。記録によると平成 13 年に三交会から発展的に引き継がれましたが、その時期の「三交会交友録」を見て当時を懐かしく思い出します。「FAR 会」会誌発刊から 50 号までを続けられたのは先輩諸氏の熱意の賜物と思います。学会活動、FAR 会の運営の中心となつて多大な尽力をされた木村千明先生、四宮恵次先生、橋本 宏先生を喪ったことは大きな悲しみです。

発刊当時から今日までの社会情勢の変化が著しいことを感じ取れます。過去の会誌をめくって見ても IT 技術の進歩によるところ大と思われます。編集委員会の尽力により投稿者のご自慢のカラー写真が目を楽しませてくれ、紙面も充実してきました。発刊からを振り返ってみると、発足当時の会員数 81 名から 15 年を経て 100 名を超えるのは難しく、色々な対策を考えても大きな変化は望めないようです。正会員の構成から入会者と退会者数でバランスが取れているといえるのでしょうか。会員の年齢構成をみると後期高齢者と言われる 75 歳以上が半数に達するようであるが、FAR 会誌に掲載されるように多趣味であり、仕事の継続や社会貢献をしている会員が多いことがうかがえます。

日本の高齢化率は世界一で、敬老の日の新聞紙面によると 100 歳以上の高齢者は 67,824 人で年々増加しているようです。健康で長寿は結構であるが寝たきりでは社会問題です。高齢者の医療費負担も上がるようであり、厳しい時代になりそうです。せこい話題ですが、ちなみに今年の東京都の 100 歳のお祝い品は銀杯だそうです。以前は金杯だったようですが、対象者増で銀に格下げされたのでしょうか？

かくいう私も老人の自覚もないまま年を重ねてきましたが、電車で席を譲られたり外出先が病院だったりするこの頃です。テレビで健康番組をよく見るようになり、筋力の維持とボケ防止のためにアスレチックジムに行ったりしています。趣味の秘境旅行も体力だけでなく危険地域も増えて難しくなるようです。しかし世界は広いし、シニア女性が意欲的で、杖を突いても参加できるツアー旅行もあるようで諦めることもなさそうです。昔はクレジット旅行と称して借金で旅に出ますが、今は年金を旅費に、旅行保険をかけて旅立ちます。大怪我で生きて帰ることだけは避けたいものです。最後は家族に面倒をかけるのが気懸りかな？日常においても財産と思われる物もないので、不要な荷物や写真・等々を片付けて身軽に暮らしたいものですがこれも大仕事です。



FAR 会の 50 号記念誌発行を祝いつつ、次の FAR 会の記念事業に参加できるように心身を程々に鍛えておきたいものです。

### FAR 会情報誌 50 号に感謝して

副会長 藤田 透



2001 年 4 月神戸で産声を上げた「FAR 会」は、同年 9 月 20 日付けで「情報誌 FAR」創刊号を発刊している。創刊時の初代編集委員長は小川敬壽氏で 14 号（2006 年 1 月 15 日発行）まで、情報誌立ち上げの重要な時期を担当された。この間、会員からの寄稿文、特集記事、写真・絵画・俳句・書などの作品紹介コーナー、郷土の連載記事など多くの会員からの原稿で彩られている。故人となられた橋本 宏初代会長や井上喜代太氏、四宮恵次氏、木村千明氏、石山 忍氏等々、懐かしいお名前も見受けられる。15 号（2006 年 5 月 15 日発行）から 35 号（2013 年 1 月 15 日発行）までの 2 代目編集委員長は山田和美氏で、特集記事、寄稿文、連載記事と、大まかなフォーマットのもとで編集されてきている。投稿されている諸氏の近況や知らなかった趣味・人となりに興味深く拝読できた。36 号（2013 年 5 月 15 日発行）から現在までの 3 代目編集委員長は森 克彦氏、氏は前代の編集委員会時代から編集の任に当りご尽力いただいております、超ベテラン編集委員長である。従来からの連載記事（ご当地自慢）のほか、学会本部情報や FAR 会情報に主眼を置いた編集となっている。また、ご自身が毎朝続けるウォーキングで集めた「編集の小窓」は毎号興味深い。

2011 年 10 月には「FAR 会創立 10 周年記念誌」が山田勝彦編集責任者のもとで発刊されている。これには 10 周年に合わせて記念事業を企画し、記念誌の発刊と FAR 会「シンボルマーク」制定の経緯が残されている。多くの会員による「この 10 年間、心に残る思い出」や「情報誌 10 年間の記録」等が纏められており、FAR 会の大きな財産となっている。「懐かしの写真集」ということで 10 年間にわたる多くの記録写真も収められているのであるが、今思うとどの写真も小さかったのが惜しまれる。

どの会でも、機関誌を定期的に発行するには編集委員会の大きなご苦労がある。原稿を集めるために企画を立てたり、企画を立てても原稿が届かなかったり・・・、日々ご尽力いただいていることに感謝以外の言葉はない。私自信、原稿を書くことを苦手としており指名がかかると悩ましい日が続く。何とか迷惑をかけないように脱稿日を守っている。また、情報誌を発刊するうえで忘れてはいけないのは学会事務局のご支援である。情報誌の印刷から発送まで、山総務委員長（副会長）ほかのご尽力に加えて、宮高事務局長以下事務局の皆さんに手伝っていただいている。この機会をお借りして厚くお礼申し上げます。

「情報誌 FAR 創刊号」で、橋本 宏会長（当時）は「FAR 会は 21 世紀の新しい交流の場」だとし、「情報誌 FAR により共通の話題や趣味を具体的な活動に繋げる架け橋としたい」と述べられています。今回の記念号発行が、100 号、200 号へと続くことを祈念しております。

### FAR 会情報誌 通巻第 50 号発行によせて

副会長 山 哲男

本会は、平成 13 年（2001 年）4 月 5 日神戸国際会議場において設立され、翌年平成 14 年 4 月 7 日神戸・三宮ターミナルホテルで、会員 40 余名が参加して「FAR 会発足記念パーティー」が開催されました。

本会は設立以来二つの事業、即ち「主に春・秋季に行う懇親活動」と「情報誌の発行」で、情報誌創刊号は2001年9月20日に発行され、今回通巻第50号を発行されました事をお喜び申し上げます。

世間一般に、雑誌・機関紙等で創刊より3号未満で休刊・廃刊になる雑誌の事を「3号雑誌」と言われていますが、本情報誌は創刊以来16年間も発行を継続してきた事は一重に歴代の編集委員長と編集委員会の弛まぬご努力のお蔭と会員各位のご愛読のお陰と思い、感謝致します。また、この様に情報誌の発行を可能に出来たのは JSRT 事務局の皆様方並びに京都近郊ご在住の総務委員会委員の方々の印刷・綴じ・発送作業等、一方ならぬご協力の賜物と、あらためて感謝申し上げます。

この度、情報誌通巻50号記念誌のために、編集委員長から「FAR 会発足から現在までの運営記録ならびに、懇親活動の記録を纏めて下さい」との要請がありましたが、本会発足に関して大いにご尽力をされ、その経緯を最もご存じであり発足当時の FAR 会運営に関しても精通されていた四宮恵次氏・木村千明氏の両氏は既に鬼籍に入られてしまい、もしもあの世に電話出来るのであればお二方に連絡したい気持ちになった次第ですが、何とか纏めたのが、「FAR 会 世話人会議(役員会議)記録」及び「FAR 会 懇親活動記録」です。

今回あらためて会の記録を纏めるについて、常日頃より正確な記録を残しておく事の重要性を痛感した次第です。

FAR 会情報誌が未永く発行され「通巻100号記念誌号」が発行されます事をお祈り申し上げます。(右の



写真は FAR 会発足記念パーティー時の集合写真で、左端に立っているのが筆者です。)

## FAR 会情報誌のページを追って

顧問 前越 久



FAR 会情報誌第50号記念誌発刊おめでとうございます。歴代編集長のご努力に敬意を表します。

FAR 会設立の経緯については創刊号(平成13年9月20日発行)に書かせて頂きましたが、この中で述べました JSRT の OB 会である「三交会」に代わって、もっと入会資格の窓口を広げた OB 会である XX 会設立趣意書なるものを XX 会規約に添えて元理事の方々へ封書で送って下さった方、所謂発案者のお名前はご本人のご意向もあり伏せておりましたが、実は今は亡き四宮恵次先生であったことをここに明かせて頂きます。



平成 13 年 4 月 5 日、神戸国際会議場におきまして第 1 回の役員会（現在の世話人会）が開催され、初代の会長には橋本 宏先生を選出し、会の名称を RFP 会と決定したと議事録に記載されています。しかし、平成 13 年 7 月 3 日、東京部会事務所に於て第 2 回の役員会が開催され、種々検討の結果、RFP 会から FAR 会（Fellowship for the Advancement of Radiology）に会長の英断をもって変更することになったと議事録に記載されています。

「情報誌 FAR」の初代編集長は小川敬壽先生でした。小生も編集委員の端くれであったため創刊号発刊の打合せのため平成 13 年 8 月 29 日、JR 御茶ノ水駅から文京区湯島の妻恋ビル 2F にある東京部会事務所に徒歩でお邪魔しました。そこそこ、距離はありましたが私もそのころはまだ足が丈夫であったように思います。創刊号の 4 ページから 10 ページにわたって新たに会員になられた 76 名の方々の「会員の近況とご趣味」の紹介記事は小川編集長の肝いりのページであり圧巻でした。現在でも時々懐かしいお名前を見つけて読ませて頂いております。私と同じ囲碁がご趣味の会員が多く目につき嬉しくなります。

情報誌 FAR 32 号から表紙及び封筒のシンボルマークが新しくなったことお気づきのことと思います。これは本会の 10 周年記念行事の一環として平成 23 年 5 月 15 日からシンボルマークの公募が始まったのがきっかけで、私はほぼ 1 月間ほど製作に集中しました。締め切り日の 6 月 30 日ぎりぎりに応募しましたが、運営委員会の予備選考を経て全世話人による本選考の結果幸運にも「FAR 会シンボルマーク・グッドデザイン賞」を頂くことになりました。平成 23 年 10 月 30 日、10 周年記念懇親会（洲本温泉・夢海遊淡路島）において、山 哲男総務委員長司会のもと橋本 宏会長より 10 周年記念特別表彰として記念品を頂戴致しました。木村素静という陶芸家作の立派な備前焼の湯呑が桐の箱に納まっていました。なおこの FAR のシンボルマークは応募したときは黒色でしたが現在は濃いブルーになっています。この色は山 哲男総務委員長が選択されたと聞いています。なるほどこの方が断然見栄えが良くなったと感謝しているところです。さらに表彰式の後の懇親会での目玉としてビンゴゲームが始まり、また 1 等賞が当たりパーソナル加湿器を賞品として頂戴しました。2 つの幸運の賞品を持って帰るのが大変でしたが四宮先生から折り畳み式リュックサックをお借りできたのが幸いでした。

さらに平成 26 年 9 月 15 日発行の情報誌 FAR 40 号の 3 ページに 会からのお知らせ として、「FAR 会の旗」（縦 30 cm、横 45 cm）が作成されたとカラー写真付きで紹介され、FAR 会の催し時に使用すると記載されています。しかしこの頃から私の脚力が著しく低下したため、春の懇親の夕べや秋の懇親旅行などの催しに参加できなくなってしまったことが残念でなりません。何とか脚力・体力の回復を願っているこの頃です。今後ともこの情報誌 FAR を会員皆様の交流を深める場として一層育てて頂きたいと念じつつ各位のご健勝を祈念致します。

## 《世話人寄稿》

### 雑 感

神戸市 今井方丈

日本放射線技術学会（JSRT）には、いろいろなシーンでお世話になりました。入会当初の JSRT との関わりは、最新技術に関する情報を得るためや、研究発表する場を得るためなど、自分自身のためでした。そのうち、研究班や委員会の一員として、また学術大会などイベント開催側の一員として活動する機会を頂くようになり、おこがましい言い方ですが会員（他人・ひと）のために JSRT と関わる事が多くなりました。それは、座長や論文査読など、なんと人様の研究に関わるといった大それた事にまで広がって



行ったのです。それが、今でもすごく役立っており、それに関わらせて頂けた事に感謝していますのは、編集委員として活動させて頂いたことでした。平成8年度から平成14年度の7年間、小寺吉衛編集委員長の下で、主としてJSRT誌への投稿論文を掲載するまでの一連の仕事をさせて頂きました。多くの研究者の投稿論文を読み、査読者の意見を読み、両者の見解の橋渡しをさせて頂くことにより、他者に正しく情報を伝える事の難しさを学びました。写真や図表でわかりやすく解説することも大事ですが、やはりなんと言っても『日本語』を正しく使うことの大切さと難しさでしょう。

話は変わりますが、私は子供の時から国語という教科が苦手でした。文章を書くことが大嫌いでした。読書感想文などは特に嫌いでした。いや、今でも文章を書くことは大嫌いです。しかし、研究発表をする、学術講演をする、すなわち『何らかの情報を多くの人に知って貰う』ためには、スライドであろうが紙面であろうが、結局日本語(文章)で表現しなければなりません。国語がいやで、文章を書くのがいやで、理系の道を進んできたのですが、結局文章を書くことから逃げ切ることはできず、否応無しに文章に関わらねばならない状況に陥ってしまったようです。さらに年を重ね、様々な文書作成や他者の文章をチェックすることが多い仕事に就いたときには、これまで蓄積された情報が活かされたのでしょうか、何故か校閲的な作業がむしろ楽しく思える様にすらなっていました。

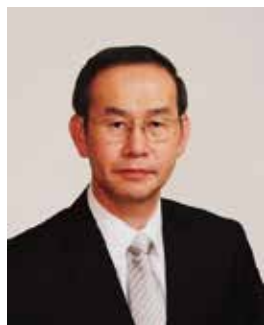
約3年前、私は臨床の場を去り、放射線技師養成施設に身を置くことになりました。なんと、そこで実習レポート(文章)の山という巨大な相手との対決をせざるを得ない状況に陥っています。一生懸命書かれた膨大なレポートを一生懸命読まなければなりません。よろしくない文章を放置することは出来ません。しかし、読むのが辛いのです。何故なら、基本的かつ正しい日本語が少ないからです。例えば、ねじれ文(『主語と述語』の関係が意味的におかしい)が多い、句読点を打たない、用語の間違いが多い、漢字が少ない、誤字脱字が多い、等々……。これらをいちいち指摘し、修正するのが、今の私の仕事の一つですが、この現象が年々酷くなっていくように感じています。

ところで、この文章はどう思われますか？

自分の事は棚に上げ、文章を書くのが大嫌いな私が好き勝手に書かせて頂きました。

## 韓国との交流について

山形市 江口陽一



2012年5月30日から6月2日にかけて第41回日本IVR学会総会(JSIR2012)が神戸市で開催された。その年は第10回アジア太平洋IVR学会(Asia-Pacific Congress of Cardiovascular Interventional Radiology:APCCVIR)とのジョイントミーティングであった。韓国からIVRに携わる放射線技師が10名ほど来日した。来日前に第41回日本IVR学会総会の実行委員会に日本の放射線技師と交流したいとの連絡がり、小生が理事長を務めている日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構の役員が対応することになった。総会の期間中に韓国と日本の交流会議と懇親会を開催した。それが交流の第一歩となった。

翌年(2013年)韓国の大韓インターベンション映像技術学会(Korean Society of Cardio-Vascular Interventional Technology:KSCVIT)から学術大会(KSCVIT2013)への招待を受けて、5月31日から6

月1日にかけて小生を含め4名が韓国を訪問した。韓国に着いた初日は、当時 KSCVIT の会長を務めていた俞濟勳( Yoo Jei Hoon)会長が勤務されている Severance Hospital を見学させていただいた。韓国(ソウル)には大きな病院が6つあり、そのひとつのことである。韓国の人口は5,000万人ほどで、その1/5の1,000万人ほどの人がソウルに集中しているらしい。ソウル周辺は高層マンションが建ち並び他の都市に無い光景である。韓国国民は病気になったときに最初に開業医にかかるのではなく、最初から大きな病院の有名な医師にみてほしいとの意向が強いとのことであった。そのため開業医は少なく、ソウルの6つのマンモス病院に患者が集中するとのことであった。また、韓国では、症状に改善がみられないと、すぐに別の病院を受診する「ドクターショッピング」をする患者が多いそうである。それが2015年に韓国で MERS コロナウイルスの感染を広げた原因のひとつとされている。Severance Hospital の見学で先ず驚いたのは病院の駐車場である。病院の地下に作られた駐車場は広大で地下5階までである。駐車した場所をメモしておかないと帰るときに車を探せなくなるのではないかと思うほどであった。X線装置はシーメンスやフィリップスが多かったが、東芝の320列の IVR-CT が循環器センターに設置されていた。当時、世界で1号機か2号機であったと思う。CTやMRIは24時間稼働しており、その検査件数は日本の病院より桁違いに多い。日本は人口あたりのCTの台数、検査件数がダントツ世界一であるが、CT1台あたりの検査件数は少ないと思われる。韓国では6つのマンモス病院に患者が集中することから、CTをフル稼働して対応しなければならない事情があるのではないかと思われた。海外からの患者も受け入れており、日本では検査が終わっている18時以降に海外の患者さんの検査が行われていた。操作廊下の壁には日本でも予約待ち時間が長いCTやMRIの予約待ちのグラフが掲示されていた。CTやMRIの予約待ちは2~3日待ちであったが、さらに短縮する努力をされていた。

学術大会(KSCVIT2013)はソウルから高速道路で4~5時間ほどの江原道旌善郡の High-One Resort Convention Hotel で例年行われている。ソウルから離れたところで行うのは、急患が来ても呼び出されないためと、会場費が安いためとのことであった。会場費が安いといっても大変立派なりゾートホテルでカジノも隣接している。韓国にはカジノがあるが、韓国人が入れるのはこのカジノだけだそう。このホテルの近くには中古車を販売する店が沢山あり、事情を聞くとカジノで負けた人が車を売っていくのだそう。

この学術大会は、医師と看護師の学術大会と合同で行っており、それぞれの会場にはお互いに自由に参加できるようになっていた。昼食と懇親会は合同で行っており、懇親会はまるで日本の忘年会のようなもので、



KSCVIT2015 のときの記念写真

病院対抗のカラオケ大会やビデオによる各病院の IVR の現状などの報告があり、医師、看護師、技師が

和気あいあいと楽しんでいた。学術大会の内容は日本と大きく変わることなく、コーンビーム CT や被ばく、画質などの発表がされていた。小生は日本の診療放射線技師の制度や業務内容、専門技師制度などを紹介した。この韓国での滞在期間中、韓国の方からたいへんな歓待を受けた、韓国国民はお客様を歓待するのは常識のようで、2015 年と 2016 年に韓国を訪問した際も同様であった。韓国からは JRC2014、JSIR2015、JRC2017 に参加いただいて友好を深めている。国と国の間にはいろいろと懸案はあるものの、人と人之间ではとても友好的である。

小生（中央）の右隣の方が現在の KSCVIT の Cho Won Hong 会長、小生の左隣 2 番目の方が Yoo Jei Hoon 前会長。この年は、日本から 7 名参加した。

## FAR 会情報誌 50 号を記念して思うこと

近江八幡市 小水 満



私と日本放射線技術学会の委員会との関わりは、1989 年（平成 1 年）の大会開催委員会（当時の大会開催準備委員会）が最初でした。当該委員会は、学会の最重要目的である総会学術大会と秋季学術大会を継続的に開催運営する実務を担う委員会でした。そのため、学会の中核で活躍されていた歴代の学会長や学術大会大会長、実行委員長の方々が考える学会への思い入れや考え方などを直接お聞きする機会が多くあり、その後の私の学会活動に大変役立ったものでした。その経験から、FAR 会情報誌 50 号記念誌発刊に際し、FAR 会をお世話頂いている諸氏には僭越ですが私が思う FAR 会について少し述べさせていただきます。

FAR 会が発足するまで、各学術大会では、学会の役員や歴代の大会長などと開催大会長との懇親会が慣例的に開催され、学会の継続的な人との繋がりが保たれていたと思います。しかし、放射線技術革新とともに放射線技術学が多様化し、技術学会組織にも多くの人材が直接組織運営に関るようになり、多面的に学会が活性化されてきました。例えば、マンモグラフィ専門技師をはじめとする各分野に専門技師制度が広がってきたことなどがありました。その反面、人材の流れが頻繁になり、一貫した人の継続性が保たれなくなったと思います。

そこで、将来的に学会が活性化する組織を確立するためには、人材育成と人との繋がりを継続的にできる組織が必要と考えられたのではないのでしょうか。その結果、学会の活動の現役から退かれた会員が継続的に学会と組織的な繋がりをもって、学会を間接的にサポートするために、外部団体として 16 年前に FAR 会として創設されたと思います。

今後、FAR 会をより発展させ、後輩たちに繋げ、長く存続させるには、単に懇親の場だけではなく、学術大会時の場に FAR 会が発信するイベントを計画することも必要と思っています。

私が FAR 会に入会したのは、JRC 2009 第 65 回総会学術大会を大会長として開催させて頂いたとき「懇親の夕べ」に招待され、FAR 会の方々に大会開催を慰労されると同時に FAR 会への入会を即断で促され今日に至っています。

私は、2009 年に定年退職となり、今では学会参加が難しくなっています。唯一、総会学術大会時の「懇親の夕べ」には出席していますが、秋季学術大会には殆ど参加できていません。しかし、現在、定年後も診療放射線診療業務を継続しており、放射線技術などの情報収集のためにできるだけ参加しようと心掛けています。



FAR 会の世話人の一人として、この度の FAR 会情報誌 50 号記念誌発刊に投稿しましたが、多少とも広報の効果に繋がれば幸いです。

### 50 号記念誌に寄せて

大阪市 草山泰子



FAR 会誌 17 年目。会員の皆様の協力と編集委員会の皆様のご努力に頭が下がります。改めて会誌の役割は何だろうと考えてみました。FAR 会に入会致しますと、年 3 回手作りの会誌が届きます。技術学会誌が毎月届いておりましたので FAR 会誌が届いてもあまり感動がないかもしれません。気が付かれましたか？皆様この会誌も進化しページ数も増えカラー刷りですね。FAR 会は色々な年齢層の方がおられます。顔写真つきの原稿からは執筆頂いた方の人となりが見え、現役時代お会い出来なかった先輩方との親近感が増すこと間違いなしですね。また JSRT のホームページに FAR 会のページがありますので、広報手段が増え FAR 会の認識が増えております。そのうえ同じ趣味の方々との交流や新しく入会された会員の動向等タイムリーな情報交換が出来るようにと四宮先生(故人)が提案されたメーリングリスト(登録された方同士の一斉メール)もあります。担当しております私の怠慢で、発信頻度が低く皆様への周知度が低く本来の役割を果たしていません。申し訳ございません。メールアドレスを変更された場合はメーリングリストへのメールではなくホームページか技術学会へご連絡ください。会誌に FAR 会の主たる活動の会員懇親会(4 月横浜)や懇親旅行(秋季学術大会開催地)のご案内が毎年されております。特に春は現在学会で活躍されておられる会員の方が諸先輩と親しく食事しながら交流出来る機会ですので、ぜひご参加下さい。9 月発行会誌には幹事をされた会員の方が記事を執筆されておられます。当日の様子に参加されなかった皆様もお読み頂き人生の節目に当たる年などぜひ一度ご参加くださいませ。会誌の楽しみの一つをご紹介します。懇親旅行の印象記。ご当地自慢の連載。北から南まで市販の旅ガイドブックでは得られない情報が楽しめます。印刷物は手元に置いて手軽に読み返しが出来ますので、ご家族やご友人との旅行や出張での立寄りとお供にお連れ下さい。毎年ご案内できているからこそ来年こそは参加しようと気軽に申し込みいただけたと思います。私事ですが、高校 2 年のクラス会を 45 年以上続けております。毎年続けているからこそ現在も 12 名以上の仲間と楽しんでおります。FAR 会の幹事の方々ほんとうにありがとうございます。最後に会誌発行の事務的情報をお伝えいたします。事務局の FAR 会担当の方(現在は澤井様)が会員情報の管理と編集委員会からの原稿を印刷していただいております。皆様もうお気づきでしょうか。45 号からは A3 で両面コピー中綴じです。会員で元事務局職員清水様が会員の皆様がホッチキスで怪我をされないようにと提案頂き現在になりました。素晴らしいお気遣いです。いろいろな方のご苦勞で手作り会誌が出来ておりますので、皆様これからもおおいにご活用ください。



FAR 会情報誌 50 号記念誌発刊





FAR 会 50 号記念誌 発刊に寄せて  
～ インターナショナル・セッション回顧録 ～

埼玉県比企郡 佐藤幸光



FAR 会の情報誌が号を重ねて 50 号となる記念すべき時に、FAR 会の世話人の一人として寄稿できることに感謝申し上げます。併せて、過去、現在と本学会の活動運営に献身的に関わってこられた諸先輩の皆様方との親交を温める場としての FAR 会は、何物にも変えがたい生き字引的存在です。

話は晴海で開催された第 44 回総会学術大会に遡りますが、日本医学放射線学会、日本放射線技術学会、日本放射線機器工業会の 3 者が一同に介して合同学会が発足した記念すべき日に、インターナショナル・セッションが立ち上がり、速水昭雄学会長より、そのセッションのまとめ役として命を受け、五里霧中のなかでの船出をしました。当時は、インターナショナル・セッションに関する運営マニュアルもなく、手探りのなかで奔走したことが懐かしく想起されます。本学会の会員のなかから英語に堪能な方を物色したが、なかなかその候補となる演者が見当たらず、苦肉の策として、フィリップス社、シーメンス社から日本人とドイツ人の演者を数名推薦していただき、併せて中国遼寧省から中国人の参加を得て、何とかシンポジウムの形態で開催することができました。この時の座長には、元 NHK 国際放送のチーフアナウンサーでありました真鍋輝明先生（当時 調布学園女子短期大学教授）に依頼し、時間内に座長の権限でしっかりとまとめられた妙技を目のあたりにして、深い感動を覚えたことを今でもはっきりと脳裏に残っております。何とかインターナショナル・セッションの時間枠を無事消化することができ、安堵した瞬間でもありました。その後、10 年間ほどインターナショナル・セッションのまとめ役を拝命して毎年、ブラッシュアップを図りながら、アメリカ、韓国、マレーシア、インドネシア、台湾などからの演者と本学会からの会員の皆さんの参加を得て、年々、充実した企画を提供することができました。今でこそ、「グローバル化」という言葉が行き交っておりますが、当時は、このような言葉は散見されておりました。この間、まとめ役として心がけてきたことは、次世代の後継者を発掘することでした。全国の若手会員から英語に堪能な方々を物色し、有力なメンバーとして加わっていただき、今日に至っております。

本学会におけるインターナショナル・セッションが発展的に運営されていることは、最初に関わってきた者にとって、至上の喜びとするところです。

本セッションが立ち上がった当時から今日に至るまで、本学会会員、工業会の皆様はじめ、多くの方々のご支援とご協力に衷心より感謝申し上げます。

今日の本学会での学術大会では、英語に堪能な会員の輩出に伴い、敢えて、インターナショナル・セッションと銘を打たなくても、一般演題のなかにおいて英語による発表も加わり、時代の流れを実感するこの頃です。

本学会の会員の皆さんが内外問わず、いろいろな学会等に出向き、グローバルな視点を持ちながら、その専門を通じてのトップリーダとしての資質を培い、大いに力量を発揮されていかれることを祈念する次第です。

## 前越 久先生と木村千明先生

鹿児島市 富吉 司



昭和 42 年に名古屋大学医学部付属 X 線技師学校に入学した。鶴舞公園と医学部の敷地が接しており、緑の多い環境であった。当時の技師学校は、木造建物で冬は隙間風が入り、鹿児島育ちの自分には随分と寒い所だと思った。3 人の専任講師の 1 人が前越先生であった。

前越先生は X 線技師学校を卒業され、その後名古屋工業大学を卒業して専任教師となられた話を聞き、自分もその道を進み教官になろうと思った。前越先生の印象は、まじめで温和な先生と思えた。高校時代までの先生方とは違ったタイプの先生であった。当時の講師の先生方の竹内政次郎先生、細江健三先生、高橋信二先生等から講義を受け、今思えばすごい先生方から教えてもらっていたのだと思う。技師学校卒業時、名古屋大学病院放射線部に就職し、名古屋工業大学に入学し、教官になることを実現すべく実行した。

木村千明先生は、技師学校の病院実習時、名古屋がんセンターで指導を受けたのが始まりでした。木村先生は、エネルギーで活発な動きをされ、ユーモアを交えた話をされる先生との印象だった。放射線治療が専門で患者との関係を大事にされる人であるとも思えた。名古屋大学病院に就職後は、学生実習の打ち合わせ、東海 4 県の学術大会等で両先生から指導を受けながら過ごしていました。高橋信二先生から、拡大撮影の教科書 (Magnification Radiology) に使う X 線写真を担当するよう言われ、具体的な方法等について前越先生から指導を受けながら完成できたことが自分にとっては、大きな収穫になっています。

昭和 53 年になって、父親が胆管がんと診断され入退院を繰り返すようになり、技師学校の教官になると決めていた思いと長男の自分が親を見ないといけないとの思いが重なるようになってきました。結局、鹿児島大学病院に勤めていた後輩が退職するので、帰ってきて大学病院に勤める気はないかとの誘いがあり、鹿児島に帰ることにしました。鹿児島大学病院で放射線治療を担当することになり、学会の治療分科会で木村先生とお会いすることが多くなりました。そのうち木村先生から京都に出てきて学会活動をするようすすめられ、学術委員長として通うようになりました。そのころ、前越先生も理事として京都に来られており、FAR 会にも入会するよう勧められました。入会后まもなく鹿児島で全国学会を引き受けることとなり、FAR 会の皆様と知覧の武家屋敷を回り、夜の宴会で盛り上がったことを覚えています。その後も秋季学会での FAR 会旅行に参加させていただきました。

このように、良き先輩に恵まれ、学会活動を通して多くの先生方と懇意にさせていただき、感謝しています。鹿児島で農業を始めてから、FAR 会に参加することが少なくなりましたが、今後ともよろしくお願いします。

最後に、FAR 会情報誌第 50 号記念誌発刊おめでとうございます。今後、FAR 会の益々の発展を祈念いたします。



## 「梅垣先生に集う会」の思い出(前編)

松本市 平野浩志



FAR 会「情報誌 50 号記念誌」の発刊、おめでとうございます。

執筆のご依頼を受けた時、即座に思いついたのが、FAR 会に推薦いただいた四宮恵次先生をはじめ FAR 会にゆかりのある先生方との沢山の思い出がある『梅垣先生に集う会』のことです。

『梅垣先生に集う会』は、当時の JSRT 東京部会の方々が中心になって発足した会で、梅垣洋一郎先生が、避暑に蓼科の別荘にお出かけになるタイミングで、蓼科、甲府、松本に集まって梅垣先生の貴重なお話を聞くとともに、自分たちの人生観、現況などをつまみに、懇親を温める楽しい会でした。梅垣先生が 2010 年（平成 22 年）1 月 2 日にご逝去された後、第 22 回梅垣先生に集う会を『梅垣先生を偲ぶ会』として、熱海に集まったのを最後に終息しました。

私が竹村先生（信州大）に連れられ、この梅垣先生に集う会に初めて参加したのは、第 9 回で、この時のコーディネータは佐藤幸光先生でした。ワークショップではグループワークがあり、雰囲気圧倒され、場違いのところに参加したと思いました。第 10 回から第 22 回まで『梅垣先生に集う会』の記憶をたどりアルバムを作成します。第 1 回から第 9 回までは、小川敬壽先生が作られました『梅垣先生に集う会』 10 回を振り返って - から引用しています。

### 第 1 回

1987 年（昭和 62 年）8 月 22 日 蓼科の梅垣先生の別荘と蓼科館（蓼科温泉湖畔）

発起人は、橋本 宏先生、鶴田重彦先生、荻原 淳先生、小川敬壽先生の 4 名で、先生ご夫妻と 19 名が参加、梅垣先生からは放射線医学の将来展望、これからの放射線技術者の役割、人生観のお話を聞き、先生の別荘でバーベキューをしたとお聞きしました。

### 第 2 回

1988 年（昭和 63 年）9 月 相田化学保養所（白樺湖）先生ご夫妻と 13 名が参加

### 第 3 回

1991 年（平成 3 年）9 月 14 日 帝京大学の研修ハウス（石和温泉）先生ご夫妻と 19 名参加

この回から千葉、山梨、長野からも参加した。

梅垣先生からは『人生への提言』というテーマで、《正しい知識が本当の力か》《幸せな人、幸せでない人それはその人の判断》《癌とボケどちらが大事か》《21 世紀は自分でどうするか》《情報は病気になる前に必要で、病気になってからでは役立たず》についてお話があり、関心は人間としてどう生きるか、如何に楽しむかが幸せの評価、自分の判断で必要以上に長生きしない、結論として欲張るのは損である。とまとめられた。

### 第 4 回

1992 年（平成 4 年）8 月 29 日 シティープラザ紫玉園（甲府）先生ご夫妻と 18 名参加

『最近想うこと』というテーマで、梅垣先生は 手作りの人生 大草原の小さな家（ローラ・インガルス・ワイルダー著）のローラ家が歩んだ苦悩の道を通し、手作りが成しえた生活や家族愛の素晴らしさ、二宮金次郎の手作りによる家の再興の話などを入れて、文明を取り入れて手作りを加えることで、より高い医療を実現することができるとお話された。参加者全員が『最近想うこと』を一言述べた。

## 第 5 回

1993 年（平成 5 年）10 月 29 日 帝京大学研修ハウス（石和温泉）先生ご夫妻と 17 名参加

梅垣先生のお話は『がんと呆けとどちらが良いか』 出来たら両方ともご遠慮したい

参加者は、《私のやりたいこと》《私の人生哲学》《私の健康法》について思いを語った。

四宮先生は、《他人に迷惑をかけず全てマイペース・自然によい汗をかく》橋本 宏先生は《ただひたすら食べること・明日のことは余り思い煩わぬこと》と述べられた。

## 第 6 回

1994 年（平成 6 年）9 月 3 日 帝京大学セミナーハウス（箱根）先生ご夫妻と 19 名参加

梅垣先生のお話は『研究も人生も手作り』テーマで、《X 線発見移行 100 年技術発展の歴史年表》《データベースからみた医用工学の歴史》を資料にお話され、昭和 20 年代には世界で初めて X 線顕微鏡撮影法、手製ガイガー計数管、手製フィルムバッチを製作、昭和 26 年には透視撮影のできる自動露出機構を搭載した蓄電池放電式 X 線装置など多くの放射線機器を手作りで製作され、医学に貢献された模様を伺い、先生の生き方を知ることができた。

参加者全員の 3 分間スピーチ『これからの人生』梅垣先生は、現在を正確にみる。四宮先生は現在の健康を維持する。橋本先生は《医療は医師》、速水先生は《自然との調和》、森先生は《余裕》、小川先生は《老後のために何をなすべきか》と述べられた。

## 第 7 回

1995 年（平成 7 年）8 月 26 日 帝京大学清里寮（清里）先生ご夫婦と 20 名参加

梅垣先生のお話は、「中山恒明賞記念講演の要旨」

参加者の 3 分スピーチは、四宮先生《遊びの奨め》遊びとはハンドルの遊びのようなもの、余裕とは違う、無いのは欠点だと述べられた。

## 第 8 回

1996 年（平成 8 年）9 月 14 日 ラフォーレ修善寺（修善寺）先生ご夫妻と 17 名参加

梅垣先生のお話は、近藤 誠先生の考え方に対しての反対意見を述べられた。

参加者の 3 分スピーチは、現状報告を行った。

## 第 9 回

1997 年（平成 9 年）8 月 29 日 セミナーフィールド（ハヶ岳高原）参加者 22 名

ワークショップは、放射線技師の自己啓発をどのようにするか 放射線技師が持つべき資質、素養とは何か、どのように身に付けるか リーダーの条件とは何か、それを現場でどう生かすか 放射線技術部門の職場教育（OJT）をどう進めるか の各テーマに分かれてグループディスカッションを行った。梅垣先生のお話は聞けなかったけど、懇親会は佐藤さんの電子ピアノをバックに、歌声スナック状態だった。

## 第 10 回

1998 年（平成 10 年）8 月 28 日 JA アスティかたおか（塩尻）先生ご夫婦と 19 名参加

梅垣先生のお話は、PC を使ったプレゼンテーションで、歴史的な人物、古い映画の話がされた。10 回を記念して梅垣先生に感謝状、四宮先生に皆勤賞の表彰を行った。参加者には木曾漆器の楊枝立を記念品として配った。翌日は、車 3 台に分乗して新穂高温泉で露天風呂を楽しみ、新穂高ロープウェイ（2 階建）で西穂高駅（標高 2,156m）まで登ったが、残念ながら穂高連峰はガスの中だった。平湯温泉に泊



まり、翌日は飛騨大鍾乳洞を見学してから飛騨の高山市に出て、合掌造りの集落（飛騨の里） 飛騨高山まつりの森で高山祭の山車、からくり人形を見学して、松本まで戻り解散した。



新穂高ロープウェイ（<http://shinhotaka-ropeway.jp/about/>）

平湯温泉（[http://hirayuonsen.or.jp/hot\\_springs1.php](http://hirayuonsen.or.jp/hot_springs1.php)）

飛騨大鍾乳洞（<http://www.syonyudo.com/>）

飛騨の里（<http://kankou.city.takayama.lg.jp/2000002/2000026/2000204.html>）

飛騨高山まつりの森（<http://kankou.city.takayama.lg.jp/2000002/2000026/2000247.html>）

#### 第 11 回

1999 年（平成 11 年）8 月 28 日 泉郷（八ヶ岳高原）

#### 第 12 回

2000 年（平成 12 年）ニュー芙蓉（甲府） 参加者 16 名

#### 第 13 回

2001 年（平成 13 年）8 月 31 日 やまなみ（石和）先生ご夫妻と参加者 21 名

塩山駅で電車組と合流し、小雨の中、西沢溪谷で 2 時間ほどのトレッキングを行った。





その後、やまなみ荘にて懇親会となった。

今回は『梅垣先生に集う会』の思い出、前編とさせていただきます。

### 記憶・記録とは ???

春日井市 藤田卓造



そん-たく【忖度】（『忖』も『度』も、はかる意）相手の心中をおしはかること。広辞苑・第6版ことといLightで検索した結果である。国会で委員会開催中財務省某理財局長が答弁で『記憶に御座いません、記録も破棄しました』と言いきり張り結果それ以上の追求も徒労に終わり、後日某理財局長は国税庁長官に抜擢されたと新聞に報道された。同様な事例が文部科学省と内閣府との間でも『記憶に無い』、『記録が無い』が連発された。

去る今年7月下旬日本核医学技術学会：東海地方会が40周年を迎えるに当たり40周年記念式典が実施された。当初研究会を立ち上げた時期から40年の経緯を報告するのに先輩である東海核医学技術研究会発足当時の初代会長が体調不良で参加できない由、古参会員である私にお鉢が回って来ました。仕方が無いと思っでは見たがはたと困惑しました。私は日記を付ける習慣が有りません。私は古い資料、技師会雑誌、技術学会雑誌、研修資料、学生時代からの写真等一切捨てて居ません（整理・整頓が出来ない性質かも ???）。

昭和37年名古屋大学医学部附属診療X線技師学校卒業後、名古屋市立大学病院就職後19年間、名古屋市立東市民病院17年間、名古屋市立城西病院4年間、名古屋市職員定年退職後翌日から勤務した名古屋東栄クリニックで13年間分の資料が我が家を建てた時、併設した卓球場（実際は3間×4間＝24畳分の広さに床と天井を張った工事現場のスプリングロッジです）が現在は倉庫で50数年分の資料がダンボール箱で山積み状態（他人にとってはゴミの山）、とても目的の資料を引っ張り出す事は困難な状態。実際問題このパソコンに到達するには蟹の横這い状態でようやく一番奥にたどり着く有様です。現在のようにパソコンが有り、デジカメが有るとまとめ易いのかも知れませんが昔はフィルムカメラでネガの作業も保存も大変でした。ところが私は大変な経験をしました。私自身はパソコンに興味がありましたので今までに4台のパソコンを自作で組み立てて使用して居ましたが一昨年3ヶ月の間に2台のパソコンが続いて動作不良になりました。メイン使用とデータ保存用です。すぐにバックアップして居なかったので、ハードディスクをはずして復旧を試みましたが駄目でした。被害は鬼籍に入った人を含め親戚の人との伊勢旅行や長男の結婚式披露宴風景等は残念ですが仕方有りません。

現在は外付けHDDを使用して居りますが作業終了の度毎にバックアップをして居ないので急に動作不

良が起きたらまた同じですね！！

結局、事務局担当の副会長にデータ提供を依頼して Power point でスライド作成してなんとか間に合わせる事が出来ました。

さて今年 11 月 11 日我が母校『島根県立浜田高等学校』の『喜寿の記念同窓会』が開催される予定になって居ます。過去にも還暦の集い(開催年 2001 年)、65 歳の集い(同 2006 年)、古稀の集い(同 2011 年)のいずれも私がビデオ撮影して、引退後昨年 4 月、8 月、今年の 8 月とビデオの編集・DVD 作成して関係者に配布する事が出来ました。写真に比べて動きが有り、音が出るこれは過去の記憶を確実に再現出来るので楽しかった若い時代に戻る事が可能です。私としてはこのビデオの記録が最大の宝物と考えますが、次の『米寿の集い』迄は、とても自信が無いので、今回の『喜寿の集い』が最後の機会かも???

### 木村千明先生と私そして FAR 会

名古屋市 堀田勝平



木村千明先生は、私が診療放射線技師としてスタートした愛知県がんセンター病院の先輩であり、平成 22 年 1 月 19 日にご逝去されるまで仕事、遊び、お酒の飲み方、人との付き合い方など「よく遊び、よく勉強し、よく働け」とすべてに渡りお教えいただき、人生の恩師でありました。

平成 11 年 3 月末に愛知県職員を退職されるときに記念誌の表紙に「人と間そして挑戦」と記され、「人」とは、私にご厚情を頂いた全ての人人人・・・親兄弟、親類縁者、恩師、幅広い友人、同僚等々であり、「間」とは「人と人の間」「間柄」そして「人間関係」等まで含んだ意味合いです。そして「挑戦」とは、今考えると私の生き様のような気がします。と書かれています。

その後、名古屋掖済会病院に勤務され平成 17 年 3 月末に退職されることを伺い、初代マンモグラフィ精度管理中央委員会(現:NPO 法人日本乳がん検診精度管理中央機構)の事務局長をお願いいたしました。一からの組織作りと人材育成を陰で支えていただき、今年の 11 月 9 日に精中機構発足 20 周年記念式典を終えることができました。これは先生の幅広い人間関係と挑戦のお陰であり、日本の乳がん検診の精度管理が構築できたと思っています。多くの方々が先生のご尽力に感謝いたしております。

FAR 会情報誌第 50 号記念誌の原稿を書くに当たり、先生が残された書類を整理したところ、沢山の FAR 会のファイルが出できました。その資料の情報誌 25 号で先生は「男の色気」について寄稿されています。胃がん切除し、肝転移、抗がん剤治療したにも関わらず、もう一度「男の色気」を取り戻したい気持ちに駆られると綴られています。

「FAR 会は先生にとって非常に大切な組織であり、開催が近づくとそわそわして楽しそうに準備されていたことを思い出します。ファイルの写真はみな笑顔で楽しんでいます。私を FAR 会に誘っていただいたのは先生であり、もう少し時間が取れるようになったら先生のように楽しみたいと思います。



## FAR 会そぞろ歩き（人との出会い）

墨田区 前田幸一



羽衣 X 線防護用品メーカーの株式会社マエダ 前田幸一です。

私の放射線技術学会との交わりは、JISZ4501X 線防護用品 の改定を、当時、永寿総合病院にご勤務の橋本 宏先生・早期胃がん健診センターご勤務の深栖一先生等とご一緒させていただいた事が始まりでした。（最近は特に記憶力が年相応に退化していますので、間違いがありましたらご容赦ください。）

工業会のメンバーとしては、当時の大日本塗料におられた四宮恵次氏がご一緒に、旧 JIS エプロン（含鉛ゴム製）の規格を改定し、より使いやすくより良い防護エプロンにする事を作業の第一目的としました。この規格改定の条件として、硬く重い強度のあるエプロンから軽く柔軟性はあるが強度は劣るエプロンへの、相反するかに思える両方の長所を見つけ出して統合し、新たな基準とするようにと要求された事は、その矛盾を乗り越えるための困難な作業の工程と共に忘れることは出来ません。東京八重洲の千代田メディカル(株)の別館会議室を使用させていただき、先ず、既に販売されていた柔軟性のある X 線防護製品の主材料・X 線遮蔽シートの物性データの収集から始め、研究会のような議論が重ねられました。柔軟性を確保すれば強度は弱くなり、強度を強くすれば柔軟性を犠牲にすることになり、お互い譲れずに激論を交わした後は、近くの縄のれんで酒を酌み交わしお互いの理解を深めたことを思い出します。

工業会の関係では、関連用品部会の病院施設見学会に参加し、多くの病院を見学し先生方と交わりを深めさせていただきました。

その後、工業会副会長に就任した際には、技術学会の役員に推薦され、微力ではありましたが学会の仕事をお手伝いした中で、勤務を終えた後や休日を返上されてまでも、会議や研修の時間を作られる先生方の放射線技術学に対する情熱と熱心なお姿に接し、深い感動を覚えたものでした。丁度、その様な時に、四宮氏から FAR 会に入会を勧められました。私のような若輩者に入会が許されるものか決断が付き兼ねておりましたが、「工業会のメンバーが少ないので早く入会するように」と督促があり、思い切って入会させて頂き今日に至っております。

技術学会との接点を開いて下さった三田屋製作所の飯田晋康氏・飯田 昇氏、そして四宮氏も鬼籍に入ってしまった寂しいかぎりですが、このような思い出の原点を作って頂いたからこそ今日がある事を嬉しく思っております。

東京支部では、速水先生・森先生・石井先生・江島先生他諸先生方と親交をいただき、多くの知識を得させて頂いております。FAR 会は私にとって学びの場です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### 第 46 回秋季学術大会 「震災から 7 年、復興と放射線技術学」

#### 日本三景松島と震災復興視察の旅

仙台市 梁川 功

FAR 会「情報誌第 50 号記念誌」の発刊、誠にありがとうございます。これも一重に FAR 会世話人・元世話人の皆様方の熱意とご努力の賜と存じます。私は 2012 年に FAR 会に入会し、東北支部担当の世話人をしております、梁川と申します。どうぞよろしくお願い致します。本年 3 月末で東北大学病院を定年退職しましたが、現在も同院におります。





2010 年 10 月に宮城県仙台市にて、第 38 回秋季学術大会（梁川大会長・江口実行委員長）を開催いたしました。そのちょうど 5 か月後の 2011 年 3 月 11 日に未曾有の被害をもたらした、東日本大震災が発生しました。

当時を思い出すと地震発生時刻の 14 時 46 分には、放射線部内のほとんどの撮影室で検査が行われていました。CT 室、MR 室、血管撮影室、核医学検査室では撮影を直ちに中断し、技師、看護師が患者さんに駆け寄り、傍らについて狭い患者テーブルから落ちないように、身体や血管確保部位を押えながら患者さんの安全を確保しました。恐ろしいほどの大きな揺れの中では、患者テーブルを引き出すことさえも容易ではないことを実感しました。停電でエレベーターも使えず、車いす、ストレッチャーの患者さんは担架で階段を上り病棟へ戻しました。放射線治療室では地下ということもあり、患者避難経路の確保を最優先に考え行動しました。また、RI の排水施設、サイクロترون室の確認を行いました（15:32）。放射線部内の装置電源はすべて落ち、100V の非常用電源で使用するポータブル X 線装置、画像処理装置、ドライプリンタの稼働確認を行い、急患対応、トリアージ体制に備えました（17:10）。しかし、本院が文字通りの野戦病院にはなりませんでした。

時が経つのは早いもので、あの大震災から 6 年 8 か月、津波による大きな被害は徐々に復興してきましたが、まだまだ多くの問題を抱えているのが現状です。来年の第 46 回秋季学術大会は、2018 年 10 月 4 日～6 日の日程で、「震災から 7 年、復興と放射線技術学」をテーマに、千田浩一大会長・坂本 博実行委員長のもと仙台市で開催されます。

そこで恒例の FAR 会の旅は、「日本三景松島と震災復興視察の旅」と題して、観光と震災復興状況の視察を兼ねる企画としました。松島の絶景を遊覧船で楽しみ、オーシャンビューの宿の眺望風呂で汗を流し、海の幸に舌鼓を打ち、ゆったりと過ごしていただきたいと思います。さらには震災復興の視察として、仙台空港付近の閑上（ゆりあげ）地区、震災遺構として公開され、津波の脅威や教訓を後世に伝える荒浜小学校。また、石巻市の被災の大きかった地域旧市街地を巡り、語り部さんによる「大震災まなびの案内」。女川町ではシーパルピア女川を訪ね、人が気軽に訪れ、集い、海を見ながら語り合う場、にぎわえる町、駅前広場、レンガみちなど復興のシンボルを視察していただきたいと思います。是非、多くの皆様方のご参加をお待ち申し上げます。来年の秋に仙台でお会いすることを楽しみにしております。

## 《会員寄稿》

### 高速バス通勤雑感

山形市 加賀勇治



定年と時を同じくして、FAR 会の入会と第二の職場（仙台厚生病院）への山形 - 仙台間の高速バス通勤を始めた。16 年目になる。乗車時間は 70 分前後。路線的に渋滞の影響が少ないこともあり、遅れても 7 分程度。なので、ダイヤの乱れはほとんどない。あの東日本大震災の時も運休することはなかった。約 10 分間隔（80 往復 / 日）でバスが来るので待ち時間も短い。確実に座れて、しかもリクライニングシート。乗り心地も悪くない。適度に寝たりスマホで遊んだり、快適な出勤の時を過ごしてきた。そんな中で垣間見たことを紹介したい。

◆始発。バス到着するもなかなか乗車させてくれず、ひたすら待つ。行先表示板の故障で「回送」のまま「仙

台」に切り替わらないとのこと。運転手が対応に大わらわ。様子をみていると、故障ではなく運転手が担当車種の使い方を知らなかったようだ。5分遅れて出発。車内アナウンスで運転手が「行先表示板故障(?)で発車が遅れてすみません」と詫びたのはよかったが、「ご乗車の皆さま、こんばんは」。運転手も故障したらしい。

◆バス到着。乗り込もうとしたら、前の男性がいきなり「おっ!」と言った。何事か。見ると運転手が女性で、若く、しかも美人だった。初めて遭遇。アナウンスが素敵。車内が和やかな雰囲気。乗っていて気持ちがいい。車線変更もしていないかの如くスムーズで、乗客に全く不快感を与えない。ただ、その姿は脚を上げたおっさん運転手と同じだった。美人なのに……。でも、またお目にかかりたい。

◆通路側の座席が空いているとき、「男性の隣」に座るか、はたまた「女性の隣」に座るか悩み迷う。男性の隣は、その男性に「男は遠慮してほしい。若い女性に座ってほしい、あんたは座りなさんな」と思っているようで躊躇。女性の隣は、その女性に「他にも席が空いているに、何で私の隣の席に座るの?この

親父、そんなに私の隣に座りたいの、私そんなに綺麗なの?」と思われるようで、これまた座るのを躊躇。結局は思いとは裏腹に「男性の隣」に。私の負け。

◆途中乗車。通路側が空いていたので座ったら隣のおっさん酒臭い。猛烈に酒臭いので顔を通路側に向けて耐えようとしたら、反対側の席には60代のおばさんとその娘らしき女性。シートを倒し素足を背もたれポケットの網の上に乗せていた。しかも二人とも、ワンピースのようなものを着て脚を上にあげた格好。隣が酒臭く通路側を向いているので、嫌でもおばさんのむき出しになった生腿が目に入る。カサカサのおばさんの脚なんて見たくもない。我慢の1時間10分だった。

◆望ましい二人掛座席の座り方。男女の体形を考えて対応すべき。普通の男性は肩幅が広く台形を逆さまにした形、女性はお尻が大きいから台形そのままの形なので、男性と女性が横に並んで座ったほうがお互いに「肩も触れ合わず」「お尻も接触せず」に済む。体型的に無理がなく合理的、理想的な座り方と思う。加齢臭と香水の臭いを我慢すればの話だが。

このように高速バスの常連客として、様々な車内の人間模様を楽しみながら通勤してきた。もう少し続けられそうである。

## FAR 会入会時のエピソード

京都市 漢那憲聖



メールのチェックを毎朝、行っていた現役時代、定年退職後、PCの電源さえ数日、入力せず、のんびりと時間を気にせず生活していた老人に文章作成等、直ぐには取り組めない。記述内容と文章構築に思いが浮かばない日々が続く毎日。原稿締切日が近づき、思考能力の衰えた我が脳に指示を与えても反応が鈍い、ついつい長年お世話になっているアルコールを片手に文章作成作業、順延! 明日、天気になーれ!

翌日、思いつくままに文字の羅列に挑戦すべく精神統一し作業開始。

FAR 会へ入会された会員は会員による勧誘以外にも多種多様なケースがあると思います。

私の FAR 会への入会は遅く 2010 年でしたが入会時のエピソードを報告させていただきます。

時は 2010 年 4 月、場所は横浜の日本放射線技術学会、会場。



学会事務局控室に入室すると、その場所には FAR 会を立ち上げ、運営してこられた高名な OB の先生方が談笑されていました。突然、奥の方から「オーイ、カンちゃん、早く FAR 会に入会しなヨ」と今は亡き四宮恵次さんより、お声をかけて頂きました。

以前にも数回、入会を勧められて、いたのですが「FAR 会は過去の会長、実行委員長、監査および理事経験者で定年退職者でないと入会、出来ないのと違いますか、それに私は現役で学会の役員も担当中なので」とお断りしていました。

「つべこべ言わず、兎に角、1 万円払えば、いいんだよ」と四宮さんの一声に「ハイ！」と即答、1 万円を手渡しました。(まるで、カツアゲ！)

私の FAR 会への入会が成立しました。

後日、私が大阪の某大学病院の CT 室にて検査中に電話交換手の方より「四宮さん、とおっしゃる方よりお電話です」と連絡が入りました。

「カンちゃん、学会場で 1 万円、受け取ったよナ、確認したいんだけど」

「ハイ、四宮さんに 1 万円、FAR 会の入会金としてお渡ししました。」

「そうか、判った。」「その 1 万円が不明なんだ！」

「私、今、CT の検査中なので、後ほど連絡させていただきます。」

後日、再度、四宮さんよりお電話を頂き

「1 万円の件、解決したヨ、カンちゃんより、貰った 1 万円、即、宮高事務局長へ手渡し、カンちゃんが FAR 会へ入会したので事務手続きをお願いします。」とお願いしたらしい。

お電話の声は、喜びに満ち溢れた悪戯小僧の様な雰囲気伝わって来ました。

「FAR 会は会員を増やさなくては行けない」と主張されていた四宮さん。

四宮さん、今後の FAR 会を天国より見守って下さい。

## 50 号記念誌に寄せて

出雲市 小松明夫



今回、会誌発行が 50 号になると聞きました。これはこれまで編集に携わられた皆様のご努力があってこそその賜物と思います。敬意を表しますとともに心からお礼申し上げます。

さて、私と FAR 会の関係は 2002 年の秋季大会(松江)からで、当時は平成不況の真っただ中でしたが、懇親会等々、とても元気な会であったと記憶しています。それから 15 年が経ちますが、この間で私にとって最も衝撃的であったのが 2011 年の東日本大震災であり福島第一原発の事故です。今もなお、多くの人が苦難の中にあって、そして、避難生活を続けている人たちがいることを思うと重い気持ちになります。それに関連したニュースとして、今年の 9 月に公表された「子どもの放射線被ばくの影響と今後の課題」(日本学術会議報告)が目にとまりました。その骨子は「福島原発事故による公衆への健康リスクは極めて小さい。」であり、中でも「胎児影響はないことが科学的には決着がついた。」とし、さらに、チェルノブイリ事故で問題となった小児の甲状腺がんは「スクリーニング効果は認められるものの放射線の影響は想定されない。」と述べています。一方、課題とされている点は「この報告の伝え方にある。」とされ、安全が伝わらず安心に結びつかない状況を伺わせます。その根底には、本来、無いはずの放射線被ばくへ

の理不尽さが大きな壁としてあるのかもしれませんが。

話は変わりますが、私は現在整形外科のクリニックで撮影業務をしており、大学附属病院では経験することのなかった診察室での診療風景を観ることができ、そして患者さんの言葉を新鮮な想いで聞いています。当クリニックは島根県の中では都市部にあるのですが、それでも高齢化の波が押し寄せています。その中で気づいたのですが複数の病気を抱えている患者さんは、複数のクリニックを受診されている現実です。総合病院で複数科を受診するのと同じなのですが、病院と診療所の業務分担を推進している今の医療体制では当然このようになるのでしょうか、やはり大変だろうと思います。また、病院・医療から在宅・介護への施策が加速されつつありますが、都市部と山間部とでは状況も違うでしょうし、個々の高齢者の置かれている状況も違うため、医療・介護が適度な介入をするためにはもっと沢山の工夫が求められていると思います。

さて、硬い話に終始してしまいましたが、FAR 会の会誌を見ていると、多彩な、そして機智に富んだ文章が多く、会員の皆さまの充実した多様な生き様を垣間見ることができ大変勉強になります。これをいつも楽しみにしている私のようなファンがいますので、この会誌がずっと続くことを望んでいます。編集を担当される方は大変だと思いますが、よろしくお願いします。

### 緩やかに時が移りゆく毎日が・・・時に乱れるトキも

相模原市 遠山坦彦



FAR 会誌が 16 年続きましたか、素晴らしいですね。歴代編集委員みな様のご苦勞を想い感謝申し上げます。掲載していただいた拙い文章を読み返す時、背中に汗を感じ、恥じ入るばかりです。性懲りもなく今回も。一方、FAR 会の集い参加は「2016 懇親の夕べ」が記憶に新しいものです。昔と変わらない先生方にお会いできた夕べでした。毎年、参加を考えはしますが、新しい情報を知りたくて学会優先になっております。

学会参加の日は定年退職したら学会通いは無いだろう。と言われ、ごもっとも。感性トレーニングと考えながら目的の曖昧さを自覚する特異日です。お金・疲労で測ると優先順位の下がる生活ですが。

当然、研究発表を立てて聞くほど熱心な人では無くなり、入り口を出たり入ったりすることがあります。見かねたか、担当女性が前の方なら空席があるかもしれない、と案内されて助かったこともあります。大勢の視線を感じ、電車の空いた優先席に向かうようで恥じ入る瞬間でした。また、入り口にすら立てず他に向かう時は、損した気分になることもあります。馴染みのない言葉や簡略語が飛び交うと、戸惑い追いかけるのが大変です。

午睡の強い誘惑と座り心地の不満に苦闘する時間。入る知識と消えゆく記憶の多さ。この現実は微妙です。暖かく接してくれるグループに足が向きます。現役でなくパートナーたり得ず、単純に OB として会場に座ることが辛くなるまで続けるのもねえ。草臥れて一息入れたいトキ、顔なじみに会えるサロンがあれば幸いなのだが。学会というトキを共有できた多くの人達、いつの間にか見かけなくなりました。

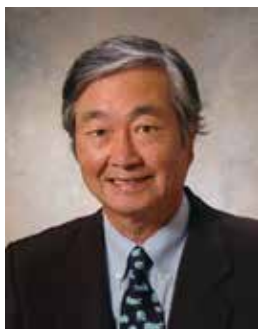
これからは、FAR 会で懐かしいお顔と、新しい出会に巡り合える機会があれば幸い。と考えています。人工知能開発が加速されているようです。学会の議論はどのように変化して行くのでしょうか。私を助けてくれる AI 医療の開発を期待して居るのですが。

ほったらかし状態のガラケー生活に浸っている現在、スマホ無しで不自由を感じることは滅多にありません。見回すとスマホを捧げ持つ光景が広がり、揃って何を覗いているのか不思議な世界です。便利さの代償とプライバシーも心配します。少しのゆとり小さな満足を感じる IT 社会を期待し、順応できるようにと考えています。

この歳で とか よい歳をして とか 言いたくないし言われたくないですねえ。それを意識すること自体、その歳に至ったということでしょうか。 ニヤッと笑って、またそんな事を言っている、と言われそうです。幸せ気分を感じるのは、食べたものを美味いと感じるトキです。これは良いことだと思っています。2~3 行ならと思った原稿がとんでもない事で埋まっちゃいました。書き終え、緩やかな時に戻れそうです。

### 退職後には何をするべきか？ 人生最後の努力への提案

前橋市 土井邦雄



約 2 年前に、私は群馬県立県民健康科学大学(2015 年)とシカゴ大学(2009 年)の二つの組織を退職し、一体自分はこれから何をするのかという疑問を抱えていました。何もしなくて良いと分っていながら、何かをしたいと思っているのですが、何ができるか、何をするかの判断は極めて難しいと感じていました。約 15 年前には、早稲田大学応用物理学科卒業同期生は毎年 2 回クラス会を持っていますが、多くの同期生が退職する時期でした。クラス会のたびに今までの経験を生かしてコンサルタント会社か何かを始めないかとの提案があり皆で数年間考えたのですが、結局何もできませんでした。

退職後に何をするかという疑問は多くの方の抱える大きな問題だと思います。特に多くの方は健康で元気です。何もしていないのは苦痛だと思います。そこで新しい趣味やスポーツを始めるとかひまつぶしを考えるのです。生涯にわたって仕事をしていたのは給料をもらって生活するためでした。しかし退職して考えると給料のためだけだったのかと思うようになります。そこで社会貢献をしていたことに気が付くと思います。いろいろな職業がありますが、職業を通じてそれぞれの職場で社会に役立つ仕事をしていたのではないのでしょうか？このような社会貢献は、気が付かないうちに自己満足となり、仕事に熱が入ることになるのではないのでしょうか？仕事に一生懸命になれば、仕事を上手にこなすようになり、上司に認められ給料が上がり、更に地位の向上にもつながる場合が多いと思います。そのような生涯の努力はそれぞれの個人にとっても社会にとっても極めて重要だと思います。そこで退職によって社会貢献できなくなった自分に満足できなくなると思います。このような見方は、現在の日本では意識されているのでしょうか？

多くの退職後の方はとても元気で健康です。このような方々を社会で受け入れることが必要ではないでしょうか？現職の若い方々は退職後の方々の職場や仕事を考えてあげる必要があるのではないのでしょうか？また、退職した方々も自分から積極的に社会貢献できる仕事を探し、仕事のできることをアピールする必要もあるのではないのでしょうか？

私の場合には、10 年前に英語論文学会誌の編集長を引き受けましたので、今後も出来る限り続投するつもりです。健康科学大学では講義を申し出て、非常勤講師として学部学生と大学院生を対象とした年



数回の集中講義を担当しています。また大学の合同ゼミと懇親会に出席させてもらっています。日放技学会には研究個別指導プログラムをお願いし開始しました。研究を進めたい、英語論文を書きたいがどのように書くのかわからず困っている若い会員を対象に、その方の病院まで出かけて指導を行うのです。一度顔をあわせていればその後の指導はメールによって行われます。学会については、現役時代に利用した RSNA, AAPM, SPIE, CARS などの国際会議には継続して出席することにしています。

### 「50 号記念誌に寄せて」 学会委員拝命のころ

京都市 西谷源展



私は昭和 45 年京都のレントゲン技術専修学校を卒業と同時に日本放射線技術学会に入会した。卒業と同時に同校の専任教員として勤務した。当時の学会は京都大学放射線部内に事務局があったが、その後に職場近くの二条プラザに学会事務局が移転した。職場には当時の滝内政次郎校長が名誉会員、恩師の山田勝彦現名誉会員が理事として学会に関与されていた。職場と学会事務局は徒歩 5 分程度の近くにあり、よく出入りするようになった。

昭和 49 年当時、学会長は垣鍔会長(神戸大学)であった。そのころに学会の庶務委員を拝命した。庶務委員の仕事は主に年 4 回の理事会、毎月の常務理事会の議事録作成であった。現在は事務局職員が議事録を作成しているが当時は事務員も少なく、庶務委員会で作成していた。当時の学会組織は各県の放射線技師会と共同で運営されている場合が多かった。学会の会員は放射線技師のみではなく放射線技術学を極めようとする人を会員にすることを目指していた人たちと、日本放射線技師会の傘下に日本放射線技術学会をおき一本化することを主張する人たちと論争があった。学会のあり方を一番議論した時代であったと思う。昭和 49 年に学会の法人化が委員会で検討され、当時の法人化委員会の委員であった橋本 宏名誉会員の努力もあって翌年の昭和 50 年 3 月 24 日に社団法人日本放射線技術学会が文部省より認可された。この時代の代議員会はいつも紛糾することが多く、法人化前後は技師会との一本化を主張する岐阜、高知などの代議員からの意見が多かった。議事録を採取する委員としては同じ意見が繰り返される議論には当惑し、まとめるのに苦労した思い出がある。そんなことも法人化が実現すると自然に落ち着きをもった代議員会に移行していった。昭和 53 年には総合委員会の中にシステム班が設置された。昭和 53 年 8 月には会員数は 11,667 名であった。会員の増加に対して事務量も増大していたために、理事会では現在では当然であるが IT 化を進めた。当時のコンピュータ出力は漢字処理が大型コンピュータのみであった。総合委員会の中にシステム班を設置し、松川収作班長の下に検討して「コンピュータ処理システム利用に関する報告書」を提出した。昭和 54 年度から全会員のシステムへの「会員再登録」を開始した。私は検討班から引き続いて庶務委員会の中で再登録に委員として参加した。しかし、12,000 名近い会員の登録はコンピュータに入力するためのコーディングシートに正確に記載しておかねばならない。大半は正確であったが、不備なものも多く訂正作業に追われた。訂正作業と同時に新入会のチェックも行った。昭和 55 年 3 月で 10,000 名近くの登録が終了したが、これには毎週 3 日程度は事務局に出向し、学生アルバイトを雇用してほぼ 1 年半の期間をかけて入力を終えた。現在では簡単なことであろうが当時としては大変な作業であったことが思い出される。



## カラー化

高槻市 福西勝司



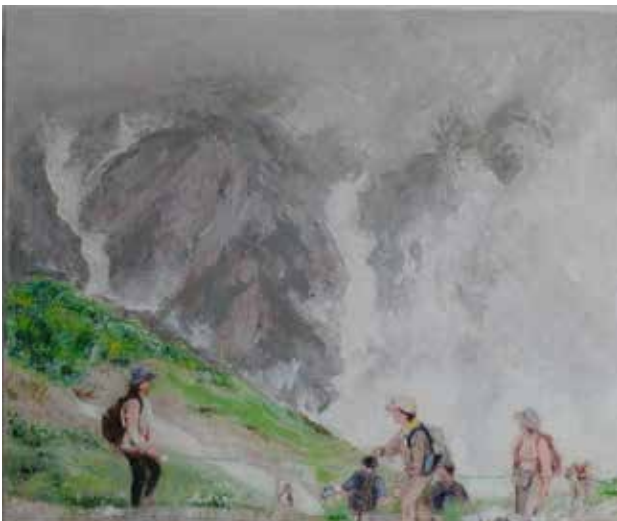
FAR 誌 50 号おめでとうございます。寄稿される方々の熱意や編集委員会のご努力に感じ入るとともに、立ち上がりの頃から 20 数号まで事務局在職中に作成と発送を担うことができたことをうれしく思っています。

なかでも情報誌のカラー化の頃のことが懐かしく思い出されます。10 号位まではプリントされた原稿を送っていただいて、モノクロのコピー機で複写して作成していましたが、カラー化の要望が高まり、インクジェット式のカラープリンターを利用することになりました。個々にプリントして必要な 100 部近くを仕上げるのですが思った以上に時間がかかり、当初はどうなることかと思われましたが、原稿ファイルをメール送信に切り換えたことによって原稿の受取時間が減少して、その分をプリント時間の増加分に充てることができたので、全体としては従来と同様の日程内に収まる目処が付きしました。画像部分は密度が高く、インクの乾燥やデータの通信のためにプリント時間が長引く要因となっていました。編集の方で掲載する画像の枚数や画素数の適正化を図っていただいたことによって、印刷の所要時間は改善され安定化しました。また、このように印刷の所要時間が安定し、原稿を即座に受取ることができるようになったお陰で、原稿の入手から情報誌の発送までの仕事の段取りが付け易くなって、情報誌を会員の方々にタイムリーにお届けするうえで、大いに助けになったように思っています。

編集委員長の意向を受けて、写真等の色調の再現性に優れたプリンターを探したこと、ベースとなる白色の再現性にこだわってホワイトペーパーを用いるようにしたこと、印刷の時間稼ぎや故障時の対応のためにバックアップ用のプリンターを準備していたけれど殆んど使わずに済んだこと、なども懐かしく思い出されます。

多少は戸惑うこともありましたが、編集委員長のご指導の下にコストコンパクトにカラー化が達成され、情報誌に彩を添えることができて本当によかったと思っています。

最近描いた油絵のコピーを添付させていただきます。新緑や紅葉にはカラーがありがたいですね。



「八方尾根に行く」(F8 号)



「嵐山秋光」(F8 号)

## 「50 号記念誌に寄せて」

狛江市 松原 馨



私は、2016 年 4 月に FAR 会に入会させていただき、2016 年 9 月の 46 号には「大人のワンダーランド築地市場」というご当地自慢の原稿を掲載していただきました。歴史ある FAR 会に入会したての新参者に快く掲載をお許しいただいた編集委員会委員長の森 克彦先生のお陰と感謝しております。私は 2013 年 3 月に東京慈恵会医科大学附属第三病院を定年退職し、同年 4 月より築地市場の正門前、国立がん研究センター中央病院の向かい側にある朝日新聞東京本社診療所に勤務しており、毎日、通勤時に時間があれば築地場内市場、場外市場に足を運んでおります。

当時はまさに、豊洲新市場への移転が決まっており、2016 年 10 月末には閉鎖されることが決まっていた築地場内市場に対する熱い思いを 46 号には書かせていただきましたが、その後の豊洲新市場の土壤汚染や地下水の問題が発覚して移転が延期され、実は現在でも築地市場は開かれております。ようやく問題も解決の方向性が見つかり、今年 2018 年の秋には豊洲への移転が決まりそうな雲行きですが、残り少ない日々、築地場内市場を満喫したいと思っております。

私にとっての FAR 会は、偉大な大先輩の方々が数多くいらっやって、とても私のような者が一緒できるような会ではないという印象があり、恐れ多い存在でした。そんな訳で、大学病院の定年後にも森 克彦先生や漢那憲聖先生をはじめ多くの先輩方からお声を掛けていただきましたが、まだまだ自分が入会する時期ではないのではと思いながら 3 年が経ってしまいました。2016 年 4 月には、ついに以前から放射線撮影分科会や神奈川乳房画像研究会で大変お世話になった萩原 明先生から直接 FAR 会の入会申込書と会費振込用紙を渡されて、強く入会を勧めていただいた結果ようやく入会させていただいた次第です。入会後は、これまで雲の上の存在であった方々とも気軽に話せるようになり、先生方との距離が一気に縮まった感があります。

とはいうものの、2016 年に FAR 会に入会させていただきましたが、2017 年 4 月までは撮影部会の委員を務めていたり、これまではなかなか FAR 会の懇親の夕べや一泊旅行には参加できませんでした。私も 2017 年 11 月で 65 歳になりましたが、FAR 会ではまだまだ若造だと思いますので、これからは春の JRC 総会や秋季学術大会にものんびりと参加させていただき、皆さまの仲間に入れていただければと思いますので、どうぞ今後とも宜しくお願い致します。

## 「50 号記念誌に寄せて：私も pay it foreword (恩送り) することを誓います!」

金沢市 宮地利明

FAR 会情報誌第 50 号の刊行、心からお祝い申し上げます。

FAR 会情報誌を読ませて頂く度に、執筆される諸先生の趣味の多様さや教養の深さを感じると同時に、放射線技術学への愛情が文面の端々から伝わってきます。また FAR 会の懇親会や旅行に参加させて頂きますと、日本放射線技術学会を通して苦楽を共に分かち合った先生方の絆や友情の強さを感じ取ることができて、本当に素敵な会と思うと共に羨ましいなと思いました。

以前にも述べましたが、実は不勉強のために FAR 会の FAR が“Fellowship for the Advancement of Radiology”の略称であることを最近まで知りませんでした。それを知った際に素晴らしい名称と思いましたが、FAR 会には“faraway”の意味、すなわち諸先生が遠い道を開拓しながら歩まれて放射線技術学の礎を築かれたことも含んでいると勝手に思っています。FAR 会の主目的は放射線医学の進展ですが、放射線

技術学の黎明期には、私みたいなのはたれ小僧（FAR 会で若い方から 2 番目）が想像もつかない多くの困難とそれを乗り越えるためのとてつもない努力が必要であったと察します。言うなれば FAR 会の諸先生の多大なご貢献がなければ、放射線技術学が現存していなかったかも知れません。ましてや放射線技術学と直に関係する学位を授与する大学や大学院などできていなかったと思います。

この放射線技術学の中核である日本放射線技術学会の最も重要な財産は間違いなく“人”です。FAR 会の諸先生は学術活動を通して多くの“人”の財産を残されました。

この人材育成は最も重要な功績と思っています。古くから「名を残すは下、仕事・事業を残すは中、人を残すは上」のようなことを言われていますが、まさしく同感であり、私も FAR 会の諸先生に支えられ育てて頂いた中の一人です。FAR 会の諸先生から頂いた大きなものを、今度は私が次の世代の人達に pay it forward（恩送り）し、次世代への架け橋になる所存です。これを世代間で増やしながら繰り返せば、連鎖的に人が育つと考えます。

最後に、FAR 会が日本放射線技術学会と共に伸展し、その輝きがさらに増して行くことを祈念致します。



FAR 会 2015 能登を巡る旅（筆者）

### 聖護院御殿壮花見の宴

西宮市 山本義憲

学会から遠ざかってかなりの歳月が流れる。お誘いを受けたとき、本音をいえば気が進まなかった。「考えておきます」と返事をした。大阪では「考えておく」は否定形、断りの意である。関西風に柔らかく断ったつもりでいた。後日、清水久子氏と草山泰子氏のお二人が世話役、同級生の平林久枝氏が参加されると知った。4 月 1 日、仕事は入っていない。数十年ぶりにお世話になった方々にお会いできると参加を決めた。時間を自由に使えるのは老いたものへのご褒美、JR 大阪京都間、快速 28 分・各停 46 分、その差 18 分。急ぐことはない和各停で京都に向かった。訪れた京都駅は数十年ぶり、些か戸惑った。改札口付近で世話役のお二人と平林氏姉妹、饗鑠としておられる後藤正季氏に出会いホットする。タクシー分乗、聖護院御殿壮へ向かう。聖護院の名は京都ではよく見聞きする。聖護院八つ橋や聖護院大根。聖護院という門跡寺院がある村で作られたことに由来するらしい。聖護院は 900 年の歴史を持つ格式高い寺院で宮廷文化が残るきらびやかな寺院とあった。御殿壮は平安神宮の北、京都大学の南、重要文化財の書院に光格天皇ゆかりの「一夜造りの御学問所」と「お茶室」。移りゆく四季を愛でる庭園、その一郭が宿泊施設として開放されている。卯月、会席料理、御献立表の末尾に「仕入れ状況により、より良い料理内容になる場合がございます」とあった。では今宵は？風情のある器に盛りつけられた山海からの賜りもの。何よりのご馳走は、参加された方々との談笑であった。開花が遅れ姿は眺められなかったが、ひそやかに桜花一、二輪、満開のしだれ桜を思わせた。ときを忘れて酒を酌み交わし、三々五々各自部屋に戻って親交を深めた。「来年もここ御殿壮で花見の宴」をもつと告げられ、一同拍手で賛意を示した。参加者 26 名、翌朝、それぞれの出会いを想い出の引出しに納、再会を愉しみに御殿壮をあとにした。



法然上人に出会った親鸞上人は「遭い難くして、今、遭うことを得たり。聞き難くして、今、聞くことを得たり」とある。人は出会いから、生きざまにかかる道しるべを永遠の別離から尊厳や生死一体との佛の教えを学ぶのであろう。出会いと別れのくり返しが人生とか、生かされている命数、その喜びを噛みしめた春の宵、「聖護院御殿壮花見の宴」の出会いに感謝と方々のご健勝を祈った。

2017.4.1「花見の宴（聖護院御殿壮）」参加者：26名

内山幸男、雄川恭行、小倉佐助、金山敬典、久保昌博、厚東正之、小水 満、後藤正季、鈴田秀子  
筒井正光・令嬢、西谷源展、平林久枝・令妹、福西勝司、藤田 透、本間龍夫・令室  
山田勝彦、山本義憲、若松孝司、日本放射線技術学会事務局：宮高 睦、井口佳世、寺本和子

世話人：草山泰子、清水久子（敬称・略）







情報誌通巻記事 ~~~~~  
 《第 74 回総会学術大会へのお誘い》

FAR 会の皆様へ

第 74 回総会学術大会大会長 錦 成郎



FAR 会の諸先輩方へご挨拶を申し上げます。日本放射線技術学会第 74 回総会学術大会を、平成 30 年 4 月 12 日（木）から 15 日（日）の 4 日間、パシフィコ横浜にて開催いたします。JRC2018 のテーマは「Innovative sciences and humanism in Radiology」, 「夢のような創造科学と人にやさしい放射線医学」としました。

Innovation とは、それまでのモノ・仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れ、新たな価値を生み出して社会的に大きな変化を起こすことであるといわれています。現代はネットワーク時代といわれて久しいですが、日常生活にも AI (Artificial Intelligence) を搭載した IoT 家電が現実のものとなり、いわゆる革新技术を身近に感じる時代へと着実に変化しています。もちろん医療界へも例外なく革新技术が導入され、これまでも増して効率化が図られるとともに、患者を含んだ医療専門職等への支援技術が研究開発され臨床応用が進むと考えます。このような大きな変革の波に晒される時代を迎えるにあたって、最も重要なキーワードは「Who's innovation？」であると確信しています。医療に従事するものであるからこそ、誰のための技術革新であるかということを真摯に考えて心に留め置くべきであると考えます。

テーマである「人にやさしい放射線医学」の実現について、しっかり議論できる大会となることを望んでいます。

さて、今回の合同特別講演は、2002年にノーベル化学賞を受賞された田中耕一先生をお迎えします。JSRT 担当の合同シンポジウム「本質に迫る研究をしよう！：前臨床研究へのお誘い」の招待講演には、光免疫療法の開発者の小林久隆先生（アメリカ国立衛生研究所）にご講演をいただきます。さらに、新しく3学会の合同企画や、日本循環器学会との合同企画、他業種との学際化について討論する医工連携シンポジウムなど、皆様に興味をもって喜んでいただける企画が目白押しです。



写真左から、太田誠一・白石順二・石田隆行・錦 成郎・齋藤茂芳・松浦由佳・林 秀隆

JSRT が取り組んでいる数々の研究の未来を切り開くヒントがちりばめられた学術大会となるよう、皆様に参加して喜んでもらえる一期一会の学術大会を目指して、実行委員が一丸となって準備を進めております。皆さんと横浜の地でお会いできることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 《2018 FAR 会懇親の夕べ》

### 横浜赤レンガ倉庫で懇親のひと時を

代表幹事 江島光弘

2018年第74回JSRT総会学術大会時のFAR会懇親の夕べは、「近代化産業遺産」の横浜赤レンガ倉庫（1911年竣工）で、明治・大正の時代を感じながら懇親を深めていただければ幸いです。

赤レンガ倉庫は日本最初の荷物用エレベーターや消火水栓、防火扉などを備えた日本が世界に誇る最新鋭の倉庫でした。2002年に横浜らしい文化を創り、市民が憩い、賑わう場へしたいとの思いを込め、「港の賑わいと文化を創造する空間」として、1号倉庫は主に文化的利用、2号倉庫は主に商業的利用施設として甦りました。これを機会に多くの会員の皆様の御参加をお待ちしております。

記

日 時 平成30年4月14日（土）18時30分より21時00分まで



会 場 BEER NEXT ダイニングレストラン 横浜赤レンガ倉庫 2 号館 3 階

<http://r.gnavi.co.jp/g029011/> TEL 050-3469-2297

会 費 10,000 円

参加申込方法 情報誌 50 号に同封の申込用葉書：3 月 15 日(木)・必着

世 話 役 江島光弘

アクセス：

ナビスコ横浜（ホテル）徒歩 8 分

パシフィコ横浜会議センター徒歩 17 分

J R 根岸線 桜木町駅 徒歩 16 分

みなとみらい線 馬車道駅 徒歩 11 分

みなとみらい線 日本大通り駅 徒歩 10 分



《2018 FAR 会懇親の夕べ》  
= 横浜赤レンガ倉庫で懇親のひと時を =  
**多数の会員のご参加を**  
**お願いいたします**



## 《2017 秋の FAR 会報告》

### 台風が迫ってくる！ 平成 29 年度 FAR 会秋の旅行

代表幹事代行 神澤良明



平成 29 年度秋季学術大会は広島市、平和記念公園に隣接する広島国際会議場で開催された。秋季旅行の幹事を決めるにあたって、中国地区の世話人がいないので川上会長にその役目がまわってきた。そこで川上会長は引きうけた後の一声「カンちゃん頼むわ!」、これで私の幹事補佐が決まった。私は平成 23 年の 10 周年記念旅行「淡路島を巡る旅」を企画させて頂いた経験もあり、楽しい旅行を目指した。しかし馴染みのない土地での旅行は分からないいいことばかりだ。まず、旅行社を決めなくてはと思い、島津製作所さんに助けをいただき旅行社を決めた。これは関西支社の野田さんにお世話になった。関西支社から広島支店に声をかけていただき近畿日本ツーリストの宮瀬洋帆さんを紹介してもらった。旅行の企画はメールと電話のやり取りで行った。宮瀬さんが女性、それも若い女性だと声の感じで分かった。声を聞きながら、どのような女性か、想像をして楽しんでた。

旅行案は宮瀬さんと相談の上、広島県の世界文化遺産登録された厳島神社、原爆ドームや平和記念資料館がある広島市内を候補と決め役員会に諮った。提案通りで旅行計画は決まった。

川上会長から「カンちゃん、全て任せるから決めてやって!」の一言で実質は幹事として引きうけたが、次々と問題が起きた。

#### 問題 1. 少ない参加者でバスはキャンセル

28 名の参加者があればいつものようにバスを貸し切って広島市内の観光地を巡る見積で、この案で実施予定であった。申込締め切りの 8 月になっても申込は増えない。結果 18 名の参加申込があった。この 18 名では予算的に赤字であった。貸し切りバスのチャーターを見送ることで何とかなることがわかった。結局、宮島へは片道はリパークルージングであったが往復共にリパークルージングにすること、市内の観光はタクシーを使うことで予算的には解決した。

#### 問題 2. 経費の前払い

9 月中旬に宮瀬さんから、「旅館とクルージングの費用、昼食代は前払いをお願いします。クーポンを発行しますので宜しく!」と連絡があった。「お金も集めてないのに、前払いは無理だろ!」と電話で交渉、しかし、若い女性に負けてしまい、約 40 万円をどうしようかと思案した。ここで助けていただいたのが宮高局長。その程度のお金でしたら FAR 会にありますよ、と快く立て替えてもらった。宮高局長に感謝!

#### 問題 3. お酒を忘れていた!

お酒のことをすっかり忘れていたことに気がついた。「えらいこっちゃ! 宴会で酒がないぞ!」。お酒を飲まない山副会長に困ったメールを、CC には川上会長と宮高局長。川上会長から幹事でありながら私用で参加出来ないとの罪悪感から「参加費の 3 万円を出すから酒代にして」と申し入れがあり、喜んでお受けさせていただこうと思ったが、これは寄付金として別会計だと指摘され、もう赤字をだしても、と開き直った。ここで宮高局長から再度の助け船。「事務局からお酒を旅館に届けておきますので、宴会でお飲み下さい」とお酒の差し入れをいただいた。

問題 4. 台風 21 号の接近初日 21 日は雨、時折はげしく降る雨に不安がよぎる。広島国際会議場から元安橋のリパークルーズ乗場までは平和記念公園内を歩いて数分で行ける場所なのでゆっくりと移動でき



と思っていたが、雨で靴からズボンまでビショビショ、先が思いやられた。船は予定通りに乗場にやって来た。雨で瀬戸内海の景色は楽しめなかったが、揺れも少なく不安なく、無事全員宮島に上陸した。ホテルに荷物を置き厳島神社に参拝した。神社では全員がご祈祷を受け、放射線技術の向上と日本放射線技術学会の発展を祈念した。

宴会、二次会はいつもの通り和やかに進み、心配していたお酒も程々に飲んで頂いた。2日目の朝に台風が接近してくることで帰りの交通が心配となり昼食後に解散することを決断した。これには参加者全員が賛成してくれた。宮島から帰路の船は初日より雨風が強くなり、心配しながら広島に戻ってきた。昼食までには時間があるので予定通に広島平和記念資料館を見学の後、雨の中を5分ほど徒歩でお好み焼きの昼食



をいただいた。ここでは帰路が心配なのかアルコールも程々にされ、食後は広島駅までタクシーを乗り合わせ移動した。予定を切り上げて、縮景園、広島城の見学はできなかった。その結果赤字を出さずに済んだ。

東北の梁川先生、江口先生は昼食もとらず、帰路を急がれ、6時間掛かって無事仙台にお帰りになられたようで安心した。今回の旅行は幹事の下手際と台風の来襲で例のない悲惨な最悪の旅行になってしまった。しかし、心温かい会員の協力で事故も無く旅行を終えられたことを皆様に感謝申し上げます。

## 総務委員会報告

### 《会員動向》

- ・ 会員数（平成 29 年 11 月 10 日現在）：95 名
- ・ 新入会者：1 名（2017 年 11 月 8 日付け入会） 井手口忠光（福岡県粕屋郡）

### 《新入会者紹介》



（「写真」ならびに、「近況」「趣味」の記述内容は入会申込書に記載されたものです。）

**井手口忠光（福岡県粕屋郡）**

**近況** 現在、九州支部の支部長を拝命して3年目になります。任期は、あと1年です。福岡市にある純真学園大学(私立)に勤務しており、入試部長と教育 ICT 委員長を兼任しております。学内の運営業務が多忙で学会との両立がなかなか出来ない状況。九州支部の理事の皆様は助けて頂きながら頑張っています。

趣味 旅行、食べ歩き、ビール、日本酒、ウォーキングです。  
趣味とは言えませんが、カメラも興味があります。  
将来、やってみたいのがパラグライダーです。

## 《会からのお知らせ》

平成 29 年度第 2 回世話人会議報告

平成 29 年 10 月 21 日 広島国際会議場会議室にて開催。

川上会長を含め世話人 19 名が出席し、以下の議題を討議・審議した。

### 1. 会務報告

#### 1) 会員動向

会員数(平成 29 年 9 月末現在)：94 名(内、名誉会員：8 名)

平成 29 年 9 月末現在

・新入会員：ナシ。

・退会者：2 名(岡本日出夫、松井美楯)

会費未納のため、規約に則り 4 月 1 日付けで退会扱いとした。

・死亡退会：ナシ。

#### 2) 事務局報告(業務月報報告および 4 月から 9 月までの収支計算書報告)

#### 3) 情報誌発送作業ならびに HP の更新作業についての報告

事務局の全面的協力の下、第 48 号、第 49 号の発送作業を夫々行った。尚、第 49 号送付時に本年度会費未納者に対して再度振込用紙を同封し、12 月末日までに納付されなかった場合は規約の定めにより退会扱いとなる事を伝えた。

また HP の更新箇所を事務局に指示し、各々最新の情報に更新した。

### 2. 平成 30 年度事業計画(案)ならびに収支予算(案)の策定に関して

事業計画は例年通りとし、平成 30 年度事業計画(案)・収支予算(案)として策定する事を正副会長に一任した。

### 3. 情報誌関係

#### ・第 50 号記念誌号関係

一部執筆辞退者があるが、平成 28 年度第 2 回世話人会議で承認された企画内容で概ね予定通り発行出来る様、進めている。

第 50 号記念誌号の表紙デザインについて、サンプルを提示し説明され、「表紙デザインに関しては、編集委員会に一任されたい」との提案があり、了承した。

### 4. 懇親活動関係

1) 懇親活動の参加費に関して、従来は会員と非会員とに金額差を設けていたが、本年度より会員に対する会からの参加費補助を無くした事を踏まえ、今後参加費を会員、非会員共に一律にする事とする。

#### 2) 「2018 懇親の夕べ」企画案の提案

(第 74 回総会学術大会 平成 30 年(2018 年)4 月 12 日～15 日、パシフィコ横浜、

大会長：錦 成郎)

・代表幹事：江島光弘

・日 時：平成 30 年 4 月 14 日(土) 18 時 30 分～21 時

- ・ 会 場：BEER NEXT ダイニングレストラン  
(横浜赤レンガ倉庫 2 号館 3 階、パシフィコ横浜会議センター徒歩 17 分)
- ・ 会 費：10,000 円
- ・ 参加申込方法：情報誌 50 号に同封の申込用葉書
- ・ 申込締切日：平成 30 年 3 月 15 日必着

代表幹事より上記企画案が提案され、企画案通り実施する事とした。

### 3)「2018 日本三景松島と震災復興視察の旅」

(第 46 回秋季学術大会 平成 30 年(2018 年)10 月 4 日(木)～6 日(土)、仙台国際センター、  
大会長：千田浩一)

- ・ 代表幹事：梁川 功
- ・ 日 時：平成 30 年(2018 年)10 月 6 日(土)～7 日(日)、1 泊 2 日
- ・ 行 程：下図の通り

コース名		日本三景松島と震災復興視察の旅	
期 間		平成30年10月06日(土)～10月07日(日) 1泊2日	
人 数		大人 20名 小人 0名 合計 20名	

日	コース	行事
1 10/6 (土)	<p>(出発) 仙台国際センター 13:00</p> <p>== (視察) 閑上日和山 13:30～13:45 ==</p> <p>(視察) 震災遺構 荒浜小学校 14:00～14:30</p> <p>== 観光(遊覧船) 塩釜港 15:00</p> <p>松島港 15:50</p> <p>== (観光) 瑞巖寺・五大堂 16:30 ==</p> <p>(宿泊) 松島センチュリーホテル 16:30</p> <p>-- 松島センチュリーホテル</p> <p>【宿泊】松島センチュリーホテル TEL:022-354-4111</p>	夕 ○
2 10/7 (日)	<p>(出発) 松島センチュリーホテル 08:30</p> <p>== (視察) 石巻 大震災まなびの案内 09:15～10:15 ==</p> <p>(観光) シーバルピア女川 10:50～12:20</p> <p>== 仙台駅 14:05 ==</p>	朝 ○

- ・ 宿 泊：松島センチュリーホテル(懇親会会場)
- ・ 会 費：30,000 円

代表幹事より上記企画案が提案され、了承した。

尚、参加申込方法、申込締切日等詳細は、平成 30 年度第 1 回世話人会議で定める。

### 4)「2019 懇親の夕べ」代表幹事の人選

(第 75 回総会学術大会 平成 31 年(2019 年)4 月 11 日(木)～14 日(日)

会場：パシフィコ横浜会議センター、大会長：石田隆行)

代表幹事に橋本廣信世話人を選任した。

### 5)「2017 広島・宮島への旅」最終確認

参加者：17 名(内；宮島宿泊者数：16 名)

移動手段の一部変更：参加者数の関係で、観光バスでの移動を取りやめ一部タクシー・徒歩での移動に変更して予定通り行う。

## 2017 広島・宮島への旅 参加者名簿

### 参 加 者

氏 名	宿泊有無
1 石井 勉	有
2 江口 隆一	々
3 雄川 恭行	々
4 神澤 良明	々
5 神澤 成紀	々
6 草山 泰子	々
7 小水 満	々
8 橋本 廣徳	々
9 遠水 昭雄	々
10 藤田 卓造	々
11 藤田 透	々
12 本間 龍夫	無
13 前田 幸一	有
14 森 克彦	々
15 梁川 功	々
16 山 哲男	々
17 山本 義憲	々

### 不 参 加 者 (著信順)

氏 名	氏 名	氏 名
1 清水 久子	18 伊藤 博英	35 川村 義彦
2 上田 克彦	19 友光 達志	36 加賀 勇治
3 宮地 利明	20 野原 弘基	37 真田 茂
4 三代 忠	21 長澤 弘	38 横田昌弘
5 萩原 明	22 飯田 泰子	39 平野 浩志
6 柴田 康行	23 鹿沼 成美	40 倉西 誠
7 江島 光弘	24 稲津 博	41 村上 長善
8 金山 敬典	25 津田 元久	42 横井 政光
9 遠山 坦彦	26 内山 幸男	
10 飯塚 芳郎	27 川上 寿昭	
11 渡部 重聖	28 水谷 宏	
12 鶴田 豊彦	29 佐藤 正幸	
13 塚本 正之	30 菊池 務	
14 喜多村 道男	31 西谷 源順	
15 高尾 龍人	32 前崎 久	
16 山田 勝彦	33 久保 昌博	
17 平林 久枝	34 山田 和美	

## 5. その他

### 1) 世話人辞任の申し出に関して

富吉 司氏より世話人辞任の申し出があり、同氏の後任世話人として九州支部長の井手口忠光氏の推薦があった。

従って、富吉 司氏の世話人辞任を認め、後任世話人に井手口忠光氏を提案し、富吉 司氏の世話人辞任を認め、後任の世話人に井手口忠光氏を選任した。

### 2) 会議関係

#### a) 平成 29 年度第 2 回運営委員会・第 1 回総務委員会との合同委員会

日時：平成 30 年 1 月中旬（予定）

場所：JSRT 事務局

#### b) 平成 30 年度第 1 回世話人会議

日時：平成 30 年 4 月 14 日(土)、14:00～15:00（予定）昼食ナシ

場所：パシフィコ横浜会議センター（予定）

## 編集委員会報告

### 《会からのお知らせ》

#### 《原稿・作品募集》

【情報誌第 51 号】(5 月 15 日発行予定)

### ■■■■「私のふらり旅」■■■■

今回も第 48 号の特集テーマを引き続き「私のふらり旅」とさせていただきます。ぶらり旅ではありません。あくまでもふらり旅です。たいした目的も考えも無く実行に移した経験をお持ちの会員諸先輩も多いと思います。また特にテーマにとらわれる必要ありません。人生は旅にもたとえられてもいます。よってふらり旅を人生の意味に置き換えていただいても構いません。豊かな経験をお持ちになり、それらを披露していただき会員諸氏に良き薫陶を与えていただくよう奮ってのご応募をお願いいたします。

## 記

原稿内容：副題（自由にお付け下さい）

原稿文字数：800 字～1,200 字（400 字原稿用紙 3 枚以内）

写真：ご自身の写真（半身）文字数に含みません。内容に関する写真及び図表は、1 枚につき原



稿文字数から 100 文字を減じて下さい。

写真・図表は、デジタルデータが希望ですが、(JPG、PDF、EXL 等)アナログデータも可。

原稿形式：ワード、一太郎、TXT 等(ワープロ、手書きも可)

提出期限：平成 30 年 4 月 15 日必着でお願い致します。

送付先：編集委員長

## 《お詫びと訂正》

前号(49号)「16年目のFAR会」の原稿内容に誤りがありました。

15行目に「また、今年は特別企画で・・・観桜食事会(世話人：清水久子氏・草山泰子氏)も行われました。」との記述をしましたが、この企画は有志による企画でありFAR会としての事業ではありませんでした。訂正しますとともにご迷惑をかけましたこと、お詫びします。 藤田 透

## 《JSRT 情報》

『第74回総会学術大会』大会テーマ：Innovative sciences and humanism in Radiology

夢のような創造科学と人にやさしい放射線医学

大会長：錦 成郎(公益財団法人天理よろづ相談所病院)

会 期：平成 30 年 4 月 12 日(木)～15 日(日)

会 場：パシフィコ横浜会議センター他

『第46回秋季学術大会』大会テーマ：震災から7年 復興と放射線技術学

大会長：千田浩一(東北大学)

会 期：平成 30 年 10 月 4 日(木)～6 日(土)

会 場：仙台国際センター

## 《秋季学術大会報告》

### 第45回日本放射線技術学会秋季学術大会を振り返って

実行委員長 隅田博臣

この度は多くの皆様のご支援とご協力のお陰で第45回秋季学術大会を開催することができましたこと感謝申し上げます。

秋季学術大会終了後より多くの皆様より「印象に残る素晴らしい大会であった」等とお褒めの言葉を頂きましたが、振り返りますと参加頂いた多くの皆様方に多大な失礼とご迷惑をお掛けしていることも分かり実行委員長として反省の念に堪えません。



第45回秋季学術大会では「多くの皆様に学会に参加して学会を楽しんで頂きたい」と考え平成27年11月に実行委員会を立ち上げました。学会のコンセプトとして「総会同様学会運営会社に全てをお願いし少人数の実行委員で開催する」でした。そのため10名の実行委員(最終的に当日実行委員を5名追加)



号(平成22年5月号)までの10年間でしたが、雑誌編集に経験の浅い私にとって重荷であると同時に、この作業は思い出に残る仕事にもなりました。

機関誌の編集という大役をお引き受けするについては、原稿で紙面が埋らないのにどう対処したらいいか、原稿が限りなく集まる保証はないわけで、そこをどのようにして解決していこうかと悩んで編集作業が動き出したわけです。このことは極めて重要なことでした。そんな中でこれまでの編集作業を思い起こすと、創刊号から第6号(平成15年5月発行号)までは私一人で編集してきましたが、号を重ねるごとに編集形態にマンネリを覚えるようになりまして、7号(平成15年9月発行号)からは編集作業に山田和美氏に加わってもらいました。山田氏は文才といい、パソコン技術といい素晴らしい才能の持ち主で、その能力を発揮していただき、第26号までは1号ごとに編集者を交代して担当してきました。この26号時点までは編集委員にご意見役として、また急場の原稿救世主として前越久氏、今は亡き木村千明氏、四宮恵次氏の3氏と編集実務を担当する山田氏と私の5人体制で担当してきました。

そして27号以降は編集委員長を私から山田氏に交代し、同時に伊藤博美氏、森克彦氏、石井勉氏の若手編集者にバトンタッチして、その後の情報誌編集がスタートしたわけです。

このように私は初めて経験した編集実務でしたが、私がパソコンにも習熟していなかったこともあり、集まってきた原稿を紙面に流し込むだけの、言わば文字だけで編集されたページ作りになりかねないと心配しておりました。

創刊号のために特集を組んでおりました「会員の近況・ご趣味」の情報を活用させていただき、ページの余白に会員が直筆の書や絵画、さし絵などを使わせてもらうことを思い付き、早速作品を送っていただき創刊号は無事に完成させることができました。この手法は以後の号でも利用することができ、編集する上で役に立ちました。このように活字ばかりでなく書画やスケッチなどを挿入することで、読む人の眼を楽しませる紙面に作り上げることができました。

創刊号が2号以降と異なった点は、会員からの回答による「会員の近況とご趣味」アンケートの集約記事でした。FAR会当初の会員数は平成13年8月の時点で89名でしたが、アンケートの回答数82通は、9割を超す会員の皆さんが回答したことになり、多くの方がFAR会に対する関心の高さを伺わせます。言い換えると技術学会OBの多くの方々がFAR会の発足を心待ちにされ、FAR会の仲間として繋がりたいと願っている現れと云っていいのではないのでしょうか。

折角、82名の会員からアンケートを頂いたのですから、その回答を基に集計してみますと、趣味で最も多かったのは、「旅行」が第1位で52%を占めました。旅行の内訳は海外旅行(18%)・国内旅行(34%)になっており、一般の同年代の趣味と比べると17年前ではかなり高い値ではないかと思いますがどうでしょうか。

次に第2位の「ウォーキング(有酸素運動、ジョギング、散歩を含む)」が41%の会員が趣味としている健康維持のための運動。この値は高齢になって健康を重んじる昨今、尤もな数値とみるか、少し少ないのではと見るか、意見が分かれるところです。というのもこの調査は今から17年前の皆さんが若かった頃の健康に対する考え方の違いからでしょうから。

第3位は「写真」を趣味とするグループですが、31%の会員が趣味としています。この3人に1人がカメラの趣味だということになりますが、昨今のスマホの普及は凄まじい勢いで、趣味の上位に上がってくることも間違い無しだと思いますがいかがでしょうか。

第4位と5位は「ゴルフ」と「囲碁」で両方とも同率の18%になっています。そして6位が12%で「ガ



ーデニング・庭いじり」でした。この辺の順位は合点のいく数字ではないでしょうか。

以上、会員の「趣味」のデータからいろいろと考えてみました。

### 編集委員長を引き継いでみて

顧問 山田和美



FAR 情報誌の創刊号は、平成 13 年 9 月 20 日に発行されています。FAR 会はこの年の 4 月 5 日に発足していますから、発足後それほど時を置かずに発行されたことになります。

初代の編集委員長は小川敬壽先生でした。多分何をどうしていいか分からない状態での船出だったろうと推察いたします。

創立 10 周年記念誌にも述べました通り、情報誌を育てようという雰囲気を感じられます。執筆される方々も、まだ現役の活気がそのまま残っているような状況でした。

私が編集にかかわり始めたのは、よく覚えていないのですが 6 号からのようです。

小川先生とは技師学校が同級で、これは後でわかったのですが生まれた所も近かったようで何となくうまが合う間柄だったせい、いつの間にか引きずり込まれたようなわけです。

この頃から特集にテーマが付けられて内容も充実してきます。7 号から始まった木内繁夫先生のそば談義にはソバの奥深さを教えていただきました。10 号からは遠山坦彦先生の「四国八十八ヶ所霊場巡り」が始まります。軽妙洒脱な文章が 13 回にわたって綴られ、あたかも自分で巡っているような気分になりました。

かかった費用も大変だったことと思います。有難うございました。この他にも特集やご当地自慢など多くの珠玉の原稿をいただきました。合わせてお礼を申し上げます。

また、この頃からカラー化への試みが始まっています。

13 号を過ぎたところから、小川先生が帝京大学の技師教育の仕事が繁多となって両方は無理な状況になったため、15 号から私が編集委員長を引き継ぐことになりました。編集委員長になって気が付いたことは、原稿は決して自分からはやってこない。ということでした。お忙しい中無理なお願いにもかかわらず原稿をお寄せいただいた方々に心からお礼を申し上げます。

26 号から編集スタッフが少し入れ替わり、森 克彦先生、伊藤博美先生に加わっていただきました。伊藤先生は体調がすぐれないため、28 号からは石井 勉先生にも応援をお願いしました。36 号から森 克彦委員長に交代し、橋本廣信委員にも参加していただくことになりました。考えてみますともう少し早めに交代するべきだったと反省しています。しかし走っている当人はなかなか気づかないのが凡人の悲しさです。

48 号から江島光弘委員が加わり、私はいつ消えてもよい体制が整いました。

### PC にて「三交会」を検索してみると！

編集委員長 森 克彦

50 号記念誌の纏めとして、「三交会」の歴史と FAR 会創設の経緯を盛り込み新たな FAR 会の一步となることを願って、川上会長に主旨の概要を述べて執筆のお願いを申し上げましたところ快くお引き受けいただきましたが、既に「三交会」を閉会して 20 年余りが経過した現在、詳細を知る関係者も資料



も乏しいので正確な内容を記載することは難しいとのご回答でしたが「情報誌 50 号発刊を祝して」に三交会の成り立ちから FAR 会への継承について明記して戴きましたこと改めて感謝申し上げます。

三交会の概要について、担当者であります筆者が記憶の中で「三交会」資料に関して、自身の PC にキーワードの「三交会」で検索してみた結果は、以下の通りです。

図-1 は、検索対象のフォルダー・デバイスとドライブです。

参考までに、ドライブ総容量は、3.503TB で使用量は、1.932TB となっております。

また、ダブルバックアップとして、Windows Home Server にも定期的（現在は、3 か月に一度程度）にバックアップを行っております。

図-2 は、検索結果で同じファイル名は、ドライブ別にバックアップしているため表示されます。

表記の中から「三交会」資料として、4 つのファイルを JPG 形式にてご覧いただきます。

図-3・1 及び 3・2 は、平成 5 年 4 月 4 日に開催する三交会懇親会出欠をご案内するための発送名簿（会員名簿：平成 4 年 12 月起案）です。会員の皆様方には、懐かしいお名前も多数見受けられるのではないかと拝察いたします。平成 5 年度の会員総数は、107 名であることが確認できます。

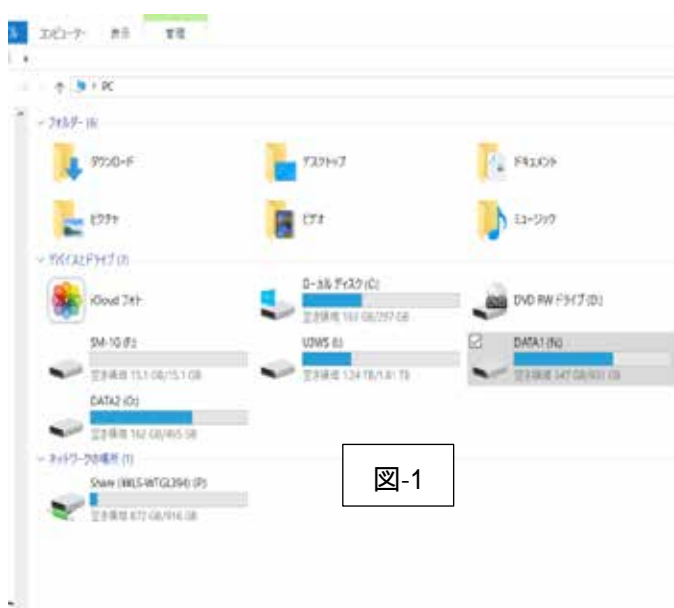


図-1

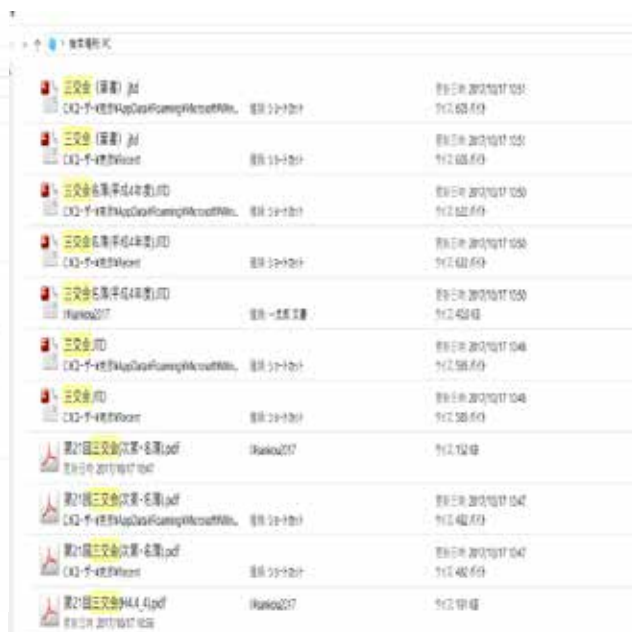


図-2



三 交 会 名 簿						(平成5年4月4日現在)		
番号	氏 名	住 所	番号	氏 名	住 所	番号	氏 名	住 所
1	青木 重秋	福岡県粕屋群	37	木村 秀夫	滋賀県長浜市	73	野原 弘基	京都府京都市
2	赤羽 六郎	長野県松本市	38	久住 佳三	大阪府寝屋川市	74	萩原 康司	北海道札幌市
3	阿部 二夫	東京都八王子市	39	熊谷 定義	福岡県京都郡	75	橋本 宏	東京都足立区
4	荒川 昌	東京都港区	40	倉西 誠	富山県富山市	76	畠山 清之助	宮城県仙台市
5	有馬 宏寧	宮城県仙台市	41	小池 孝治	兵庫県明石市	77	畑山 良吉	滋賀県大津市
6	伊勢田 静夫	福岡県福岡市	42	國井 立志	兵庫県神戸市	78	速水 昭雄	千葉県鴨川市
7	一色 政之介	茨城県勝田市	43	小成田 文郎	群馬県前橋市	79	東田 善治	熊本県熊本市
8	乾 三郎	静岡県三島市	44	後藤 正季	大阪府高槻市	80	樋口 喜代治	岩手県盛岡市
9	井上 喜代太	福岡県北九州市	45	税所 篤正	鹿児島県鹿児島市	81	平尾 東一	鳥取県八頭郡
10	今津 博	京都府京都市	46	斎藤 一彦	千葉県松戸市	82	深栖 一	埼玉県所沢市
11	石山 忍	京都府長岡京市	47	坂 清廣	愛媛県今治市	83	藤田 一彦	徳島県徳島市
12	岩佐 誠	北海道札幌市	48	佐久間 正	神奈川県横須賀市	84	藤野 哲三	福岡県福岡市
13	上田 稔	福島県福島市	49	佐藤 喜代治	東京都小平市	85	細江 謙三	愛知県名古屋
14	潮田 正	茨城県水戸市	50	佐藤 貞男	群馬県前橋市	86	松浦 浩	愛知県名古屋
15	梅原 傳介	京都府京都市	51	柴田 崇行	北海道札幌市	87	松尾 優	福岡県八女郡
16	遠藤 俊夫	大阪府豊中市	52	篠宮 仙造	埼玉県川越市	88	松本 秀雄	兵庫県神戸市
17	遠藤 久勝	宮城県仙台市	53	下野 哲男	鹿児島県鹿児島市	89	松本 宗夫	鳥取県米子市
18	大久保 高	兵庫県神戸市	54	下村 金通	長野県駒ヶ根市	90	丸山 静雄	長野県松本市
19	大竹 總一郎	山梨県甲府市	55	渋谷 慶一郎	埼玉県川口市	91	三代 忠	栃木県下都賀郡
20	大塚 恒	栃木県鹿沼市	56	菅 隆	千葉県八日市	92	光田 秀雄	奈良県奈良市
21	大屋 正次郎	埼玉県春日部市	57	杉江 義男	静岡県浜松市	93	森 嘉信	兵庫県宝塚市
22	岡橋 房一	大阪府大阪市	58	須子 正典	福岡県福岡市	94	森山 有相	福岡県大野城市
23	小川 敬壽	埼玉県鶴ヶ島市	59	鈴木 茂雄	長野県松本市	95	山岸 一雄	茨城県古河市
24	小倉 佐助	京都府長岡京市	60	高田 卓雄	熊本県熊本市	96	山口 喜吉	兵庫県神戸市
25	加賀 勇治	山形県山形市	61	高松 正由	兵庫県神戸市	97	山田 勝彦	京都府亀岡市
26	垣 房穂	兵庫県神戸市	62	竹内 稔	愛知県犬山市	98	山下 一也	兵庫県神戸市
27	勝浦 秀雄	北海道砂川市	63	田中 善三郎	静岡県藤枝市	99	山下 緑	千葉県船橋市
28	加藤 芳郎	愛知県名古屋	64	津田 和良	大阪府茨木市	100	吉田 次郎	兵庫県伊丹市
29	鹿沼 成美	東京都練馬区	65	時田 長時	長野県松本市	101	吉田 弘	京都府京都市
30	神村 厚賜	岡山県邑久郡	66	飛田 明	石川県金沢市	102	渡部 洋一	三重県桑名市
31	川上 壽昭	愛媛県温泉郡	67	中澤 邦夫	静岡県掛川市	103	渡部 昇	愛媛県温泉郡
32	川崎 幸槌	東京都中野区	68	中島 綾雄	岡山県岡山市	104	大塚 昭雄	山口県宇部市
33	川又 茂	茨城県水戸市	69	中堀 孝志	京都府京都市	105	金尾 啓右	大阪府池田市
34	川村 義彦	埼玉県北葛飾郡	70	中村 純雄	鹿児島県鹿児島市	106	池田 穂積	大阪府大阪市
35	神田 幸助	埼玉県所沢市	71	西村 信男	京都府宇治市	107	砂屋敷 忠	広島県広島市
36	木内 繁夫	山形県山形市	72	二宮 肇	兵庫県宝塚市			

図-3・1

図-3・2

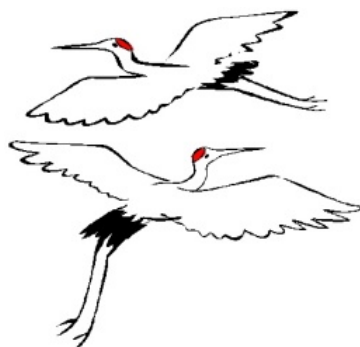




図-4 は、平成 5 年 4 月 4 日に第 21 回 三交会懇親会出席者一覧表です。懇親会場は、横浜中華街「萬珍楼」(12 時～14 時：参加総数 45 名)でした。懇親会場に 2 回ほど下見と打ち合わせに来場したことを思い出します。

平成 5 年の、日本放射線技術学会は第 48 回総会学術大会にて、斎藤一彦大会長・川村義彦実行委員長にて、新設されたパシフィコ横浜会議センターにて初めて開催された総会学術大会であり、参加会員数が 4,000 名を 10 年ぶりに越えた総会学術大会でした。

川村 実行委員長

### 第 21 回 三交会懇親会出席者

平成 4 年 4 月 4 日 横浜・萬珍楼 (あいいうえお順)

阿部 二夫	一色政之介	石山 忍
梅原 傳介	遠藤 俊夫	大屋正次郎
小倉 佐助	川崎 幸樹	神田 幸助
木内 繁夫	久住 佳三	小成田文郎
佐久間 正	佐藤喜代治	篠宮 仙造
渋谷慶一郎	下野 哲勇	菅 隆
杉江 義男夫妻	高松 正由	西村 信男
橋本 宏	東田 善治	樋口喜代治
深栖 一	三代 忠	山田 勝彦
吉田 次郎	吉田 弘	(以上 30 名)

### 総会運営のため途中退席者

✓鹿沼 成美	✓川村 義彦	✓後藤 正季
✓斎藤 一彦	野原 弘基 ?	✓速水 昭雄
✓森 嘉信	✓山岸 一雄	✓山下 一也
山下 緑 ?	✓小川 敬寿	(以上 11 名)

### 協力者

國谷恵美子 (東京却会) 小島 (富士メ) 西山 (富士メ)

〇〇 〇〇 (富士メ)

合 計 45 名



図-4

図-5 は、第 21 回三交会懇親会・次第及び最終出席者名簿です。懇親会次第に世話人・佐久間正先生、学会長・速水昭雄先生(現:FAR 会・副会長)のお名前も確認できますし、総会運営関係者の途中退席者名、新入会者 7 名のお名前も確認することが出来ます。また、図右下に料理人数 35 名分、3 月 17 日依頼済の

第 21 回三交会 懇親会次第		第 21 回 三交会懇親会出席者 平成 4 年 4 月 4 日 横浜・葛西臨海公園(注)	
12:00 ~12:10	記念撮影	阿部 二夫 一色政之介 石山 忍 梅原 傳介	
12:10 ~	開会のあいさつ	遠藤 俊夫 大屋正次郎 小倉 佐助 川崎 幸雄	
	世話人 佐久間 正	神田 幸助 木内 繁夫 久住 佳三 小成田 文郎	
	学会長あいさつ	佐久間 正 佐藤喜代治 佐藤 貞男 藤宮 仙造	
	学会長 速水 昭雄	渋谷慶一郎 下野 哲男 菅 隆 杉江 義男	
12:20	大会会長あいさつ	杉江 婦人 高松 正由 西村 信男 橋本 宏	
	大会会長 斎藤 一彦	速水 昭雄 樋口喜代治 深栖 一 三代 忠	(以上 31 名)+1 名
12:20	乾 杯	山田 勝彦 吉田 次郎 吉田 弘	計 32 名
12:25 ~12:30	新入会者紹介	総会運営のため途中退席者	
(7 名)	司 会 神田 幸助	鹿沼 成美 川村 義彦 後藤 正幸 斎藤 一彦	
12:30	懇親関係者退席	野原 弘基 (東田 善治) 森 嘉信 山岸 一雄	
	懇 談	山下 一也 (山下 謙) 小川 敬寿 (以上 11 名)	
	中締め	新入会者紹介	
13:45	閉会のあいさつ	川村 義彦 (第 48 回総会実行委員長)	
14:00	終 宴	三代 忠 (第 49 回総会大会長)	
	司 会 神田 幸助	東田 善治 (第 19 回総会大会長)	
		木内 繁夫 (第 20 回総会大会長)	
		加賀 勝治 (第 20 回総会大会長)	
		協力者	
		國谷忠美子 (総務部長)	
		小島敏男 (第 21 回総会)	
		西山 宏一 (〃) 3 名	
		出席者 合計 45 名	
			料理人数 35 名分 依頼済 3/17

図-5

記載は筆者が書き加えたことを思いおこします。

図-6 の三交会(葉書)jtd(一太郎形式 File)

1997 年の 11 月頃に三交会開催の案内状に対する近況報告(往復葉書:返信)原稿として作成・印刷・発信したものです。因みに、三交会懇親会出席者並びに会員に各人の近況報告のコピーをファイルして

配布された記憶(記憶違いで

なければ)があります、

現在、手元には存在しません。

以上が、筆者の資料及び

感想です。

三交会のご案内を戴きまして有り難う御座います。

第 53 回総会学術大会の残務整理も 6 月を持ちまして無事に終了することが出来ました。これも一重に諸先輩並びに会員各位のご指導ご鞭撻の賜と衷心より感謝申し上げる次第であります。

1999 年 4 月に東京臨海副都心のビックサイト並びに T F T ビル(東京ファッションタウン)にて開催致します第 55 回総会学術大会の実行委員長を再び拝命いたしまして本年 8 月に実行委員会の編成を終了いたし、大会企画及び準備実行を進めておりますので大会へのご参加を心よりお待ち申し上げます。

三交会の諸先輩方の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

図-6

## 情報誌編集の思い出

副委員長 石井 勉



FAR 会情報誌 50 号発刊おめでとうございます。情報誌の編集委員を 28 号から携わっております。まだ半分もお手伝いしておりません。この間創立 10 周年記念誌を出したと思っていたらもう 50 号の記念誌になるのですね。この年になって本当に月日の経つのは早いと思います。編集の思い出を語る前になぜ編集委員になったのかを思い出します。山田和美先生が委員長の頃はお茶の水駅近くの居酒屋で 2 時から 4 時頃まで会議をしていました。真面目な会議が

終了後食事会という飲み会が催されます。結局はこれが楽しみで編集会議に出席したものです。和気あいあいとした雰囲気の中で経験豊富な諸先輩のお話も身を引き締めるものでした。杯を重ねるごとに時間の感覚がなくなり気が付くと朝の目覚ましに起こされることの繰り返しでした。相変わらず記憶も無く、財布の中を調べてお金が少なくなっていることを確認して支払いは済ましたんだなと思ったものです。だから今でも編集委員会のメンバーになった経緯は不明です。FAR 会入会はいつの学会だったか覚えていませんが、お昼御飯を食べに行ったときに今は無き四宮先生にお目にかかりました。ご挨拶の後四宮先生は1年間2,000円、5年で1万円だから1万円出さないとなんの説明もなく仰りました。今でもそうかと思いますが当時も5年分まとめ払いとなっていました。そしてよくよくお話の内容をお伺いするとFAR会への勧誘でした。もちろん断ることは不可能で即答したことを覚えています。さすがに学会期間中のお昼で酒は飲んでいなかったためしっかりと記憶していたと確信しています。それに対して編集委員になった経緯は本当に記憶にありません。今更誰かに聞く事も出来ず謎は残ったままです。

無事会員として認められ、懇親会などにも出席するようになると投稿の依頼が来たりして幼稚な文章を6編くらい書いたかと思います。懇親会報告を書くことになった時は記憶が途切れないよう飲む事を抑えていたのも懐かしいです。短い期間に依頼が来ましたので編集委員の時と重なっており又お酒による記憶喪失などで当時の模様はあやふやになっています。

編集委員になって困ったのは編集の小窓を書くことです。つまり編集後記の記述です。短すぎるのも、長すぎるのも駄目で季節感や情報誌の内容の記載等簡潔にまとめる必要があります。山田委員長から何回かは書き直しを命じられました。自分の文才のなさをつくづく感じました。それに比べ情報誌に記載された先生方の文章は表現豊かで奥行きがあり、深みがあり素晴らしい出来となっています。森委員長の下でこの素晴らしいお手本を元に情報誌編集作業を行っていきたいと思っています。

## FAR 会員の情報誌

編集委員 江島光弘



今年度から森 克彦編集委員長のもと、FAR 会情報誌の編集委員を担当させていただくことになりました。

今回こうして第50号記念誌の発刊に携わることが出来、緒先輩方が今日まで育ててこられたFAR会情報誌の役割の大きさを改めて感じています。

FAR会情報誌については、年3回発刊(1月、5月、9月)され、「FAR 会の活動状況、会員の動向、事業報告、事業計画、役員会などの報告、会則改定、行事予告、その他 JSRTの情報などのお知らせを伝える。」ことを情報誌本来の使命としながらも、前小川敬壽編集長の方針を引き継いで「親しみの持てる内容にするために、懇親会や旅行の報告、会員からの投稿による旅行記、絵画、写真、書画などの作品の掲載、世話人の持ち回りでテーマを決める特集、その他酒や蕎麦など食べものについての蒔蓄、四国霊場巡りやご当地自慢などを掲載してきた。」としています。(詳細は放射線技術学会ホームページ「学会について」の「FAR会」に掲載されています。)

これらの企画はFAR会の目的(規約：第2条)を達成するために大きな役割を持つ内容だと思っています。

ご当地自慢や旅行記などの特集はいつも楽しみに読ませていただいています。名産品であったり、場所・物の名前や行事の由来であったり、執筆者の思いをうかがわせる表現力の豊かさを勉強させていた



だきながら、心が和むのを感じています。そして何よりこの情報誌をとおして会の現状と寄稿された執筆者の近況を会員の皆さんと共有出来ていることが大切だと思います。

今後も、引き続き情報誌の役割を十分に果たすことが出来ますように、関係の方々のご指導と会員の皆さんのご協力をお願いして、編集委員として微力ながらお役に立てますように努力いたします。

### FAR 会情報誌の編集に携わって

編集委員 橋本廣信



私が編集委員を担当するきっかけは、森 克彦先生が編集委員長に就任された時期に誘いを受けて、平成 25 年 4 月から情報誌の編集を担当することになりました。今年は、4 年目を迎えますが当初より編集の大変さが良く分からず引き受けましたが、いまだに編集委員の方々には、ご迷惑をお掛けしつつ、手助けを頂いています。

情報誌も早いもので、平成 13 年 4 月に FAR 会が結成されてから今年で 17 周年を向かえることになり、FAR 会の情報誌も会結成の半年後の 9 月に創刊号を発刊して、今回、記念誌第 50 号をお届けすることになりました。この間、情報誌 FAR を支えてくださった会員、そして情報誌の発刊にご協力くださった事務局長・事務局員の方々の温かいご理解とご支援に心より感謝申し上げます。創刊当時の頃の情報誌を拝見すると、初代の編集委員の方々が試行錯誤で苦労しながら内容の構成を作り上げてきて、現在に至っており、校正等がやりやすくなって来ていると思われます。掲載内容については、私が関わった情報誌 36 号よりからは、表紙に会長及び副会長の「ごあいさつ」・「春の懇親の夕べ」及び「秋の旅行」等の案内・報告・事業計画及び事業報告等の掲載が定着し、その他には、23 号より連載で「ご当地自慢」が現在に至るまで続いています。掲載して頂いた会員の方のご当地ならではの自慢については、歴史的背景や秘話・カラー写真等により、読み応えがあり、実際にその土地に行った様な錯覚に陥る様な内容もありました。また、特集では、「心に残る写真機(カメラ)」等に掲載された多くの会員の方々が興味を持って要られたことに驚きました。金尾先生が「人生のターニングポイント」の特集に連載で寄稿された内容は色々な処で数回のターニングポイントから転職を繰り返して最後に技師を目指されたことに感銘を受けました。これからも会員の方々の協力を頂き、益々掲載内容が充実して行くとおもいます。

今後、会員の皆様には、ご要望などがありましたら編集委員会に是非お知らせください。編集委員一同、今後も努力して新しい企画なども設けて行きたいと存じますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

最後に会員の方々には、いつまでもお健やかに過ごされますよう祈念いたします。



## 情報誌 FAR 50 号発行に寄せて

事務局長 宮高 睦

FAR 会の情報誌 FAR が平成 30 年 1 月の発行で 50 号を迎え、大変おめでとうございます。  
事務局職員共々お祝い申し上げます。(写真 1)



写真 1 事務局全員と発送作業の先生方

後列左から、寺本（職員） 仲井（職員） 北川（職員） 川嶋（職員） 岡田（職員）

前列左から、山先生、宮高（職員） 清水さん、草山先生、井口（職員）

情報誌 FAR は、平成 13 年 9 月の創刊号より、年 3 号の発行で足かけ 17 年で 50 号が達成されました。情報誌編集委員会の先生方の毎回毎回の編集作業、発送作業して下さる先生方ならびに寄稿される会員のご協力の結果が 50 号につながっており、みなさまの努力の賜物と思います。「光陰矢の如し」と言いますが、創刊号からの情報誌をめくってみますといろいろなことがあったことがよくわかりますし、FAR 会にとって密度の濃い 17 年間だったと推察いたします。また、創刊号から 3 年ほどは白黒印刷でしたが、10 号からカラー写真が掲載されていますし、11 号からはあいさつ文の顔写真もカラーとなっています。11 号（平成 17 年）より情報誌もカラー時代に突入しました。

情報誌の作成・発送に目を向ければ、創刊号からインクジェットプリンターで情報誌を印刷していたのですが、平成 22 年度にレーザープリンターを購入し、印刷スピードと印刷の質の向上を図りました。また、発送作業においては、京都近郊にお住まいの先生方に毎回お手伝いいただきまして情報誌以外の会費請求案内、イベントの案内はがき、会員名簿などを定期的に同封して発送しています。

Congratulations

写真 2 は第 49 号の発送作業の風景です。



写真 2 発送作業 左から、山先生、清水さん、川嶋（職員）、草山先生

情報誌にも掲載されていますが、多くの先生方とお会いできる総会学術大会時(4月)の「懇親の夕べ」は、事務局としても楽しみにしているイベントです。幹事の先生が事前下見などして一生懸命探してくれました名店の料理は格別で、ほんとうに毎回楽しみにしています。事務局(京都)の留守番の関係で職員全員と一緒に参加することはできませんが、職員も先生方との語らいと食事は楽しみにしております。

最後に、FAR 会が今後ますます発展し、情報誌 FAR が進化していきますように事務局としても微力ながら会員の先生方と一緒に頑張っていきたいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。





## 53

FAR会 懇親会記録 平成14年度(2002年度) ~ 平成29年度(2017年度)

年 度	年 月 日	懇 親 事 業	場 所	会 場 名	宿 泊 (有無)	参加 者数	会 員 参加費	関連懇親事業	懇親会幹事
平成14年 (2002年)	2002/4/5	発足記念パーティー	神戸	三宮ターミナルホテル	無	42	¥ 5,000	北野地区異人館めぐり	後藤 石山 木村
	2002/10/19,20	松江と出雲の旅	湯元	湯の川温泉	有	29	¥ 16,000	松江城掘割船遊、出雲大社等	川上 木村
平成15年 (2003年)	2003/4/13	古都 鎌倉散策	鎌倉	峰 本	無	20	¥ 3,000	鎌倉 社寺ウォーキング	四宮 小川
	2003/10/11,12	秋田 男鹿の集い	男鹿	男鹿観光ホテル	有	25	¥ 17,000	入道崎、寒風山、八郎潟など散策	加賀 木内 有馬
平成16年 (2004年)	2004/4/10,11	箱根・湯河原の集い	湯河原	水月旅館	有	26	¥ 15,000	横浜よりバスにて箱根経由	木村 四宮 小川
	2004/10/23,24	京都・高雄の集い	高雄	もみじ家別館	有	32	¥ 23,000	紅葉の高雄・神護寺付近散策、	山田 野原 山
平成17年 (2005年)	2005/4/1,2	安房・鴨川の集い	木更津	オークラアカデミーホテル	有	24	¥ 23,000	亀田岬 磯見ヶ崎見学、バス遊覧	小川 山田 速水
	2005/10/12,13	摩羅の集い	鹿児島	指宿ロイヤルホテル 霧島山麓荘	有 (2泊)	25	¥ 35,000	1日目：知覧等バス遊覧 2日目：霧島観光(13名参加)	中村 下野 木村
平成18年 (2006年)	2006/4/8	2006 FAR会懇親の夕べ	横浜	初芳館	無	37	¥ 6,000	初芳館にて会食・懇親	四宮 小川 萩原(明)
	2006/10/21,21	2006 北への集い	定山溪	グランドホテル瑞苑	有	24	¥ 20,000	小樽運河、豊平峡、支笏湖等散策	柴田 萩原(康) 菊池 木村
平成19年 (2007年)	2007/4/14	2007 FAR会懇親の夕べ	横浜	初芳館	無	32	¥ 6,000	初芳館にて会食・懇親	石井 萩原(明) 木村
	2007/10/27,28	2007 伊勢心のふるさとへの旅	鳥羽	ビューホテル花真珠	有	24	¥ 23,000	伊勢神宮正式参拝、おかげ横丁散策	前越 木村 山
平成20年 (2008年)	2008/4/5	2008 FAR会懇親の夕べ	横浜	龍鳳酒家	無	33	¥ 7,000	龍鳳酒家での会食・懇親	松井 萩原(明) 山
	2008/10/25,26	2008 軽井沢・草津への旅	草津	ホテル高松	有	17	¥ 25,000	浅間山溶岩・白根山等散策	平林 飯山 山
平成21年 (2009年)	2008/4/18	2009 FAR会懇親の夕べ	横浜	初芳館	無	27	¥ 6,000	初芳館にて会食・懇親	小川 萩原(明) 四宮
	2009/10/24,25	2009 美作・湯郷への旅	美作	季譜の里	有	15	¥ 20,000	美作湯郷温泉泊、岡山後楽園散策	川上 金山 藤田
平成22年 (2010年)	2010/4/10	2010 FAR会懇親の夕べ	横浜	美濃吉	無	35	¥ 6,000	美濃吉での会食・懇親	萩原(明) 森
	2010/10/14,15	2010 杜の都への旅	松島	一の坊	有	18	¥ 20,000	松島観光船にて島々遊覧	佐々木 加賀 木内 有馬 藤田
平成23年 (2011年)	2011年3月11日に発生した東日本大震災の結果、横浜で開催予定のJSRT総会学術大会が中止となり、FAR会「2011 懇親の夕べ」中止。								
平成24年 (2012年)	2011/10/30,31	2011 淡路島を巡る旅	淡路島	淡路島・夢海遊	有	31	¥ 25,000	大鳴門橋・渦潮、伊弉諾神宮参拝等	神澤 清水 藤田(透)
	2012/4/14	2012 FAR会懇親の夕べ	横浜	屋形船「すずよし」	無	26	¥ 9,000	屋形船船上での会食・懇親	石井
平成25年 (2013年)	2012/10/	2012 箱根を巡る旅	箱根	湯元温泉「おみかだ」	有	22	¥ 23,000	大湧谷・箱根神社・美術館等箱根遊覧	山田(和) 四宮 伊藤(敬)
	2013/4/13	2013 FAR会懇親の夕べ	横浜	レストラン・スカンジア	無	28	¥ 9,000	1963年創業のレストラン・スカンジアの会食懇親	萩原(明) 宮崎
平成26年 (2014年)	2013/10/19,20	2013 佐賀への旅	佐賀	唐津・「大望閣」	有	19	¥ 25,000	杉能舎酒工房、旧高取邸、呼子朝市等散策	富吉 佐藤 井手口
	2014/4/12	2014 FAR会懇親の夕べ	横浜	岩亀本店	無	29	¥ 9,000	老舗の日本割烹「岩亀本店」での会食懇親	速水 萩原(明)
平成27年 (2015年)	2014/10/11,12	2014 登別の名湯と アイヌ文化を巡る旅	登別	登別グランドホテル	有	21	¥ 25,000	駐捕獲用イヌアホ水車、地獄谷、熊牧場、 アイヌ民族博物館等見学	萩原(康) 柴田 菊池
	2015/4/17	2015 FAR会懇親の夕べ	横浜	利休庵本店	無	31	¥ 9,000	木鉢蕎麦「利休庵本店」での会食・懇親	伊藤(敬)
平成28年 (2016年)	2015/10/10,11	2015 能登を巡る旅	能登	和倉温泉「ホテル大観荘」	有	20	¥ 25,000	「ザ・ダイア」内、輪島朝市、白米千枚田見学	宮地 神澤 藤田(透) 山
	2016/4/17	2016 FAR会懇親の夕べ	横浜	聘珍楼	無	34	¥ 9,000	1884年創業の聘珍楼にて会食・懇親	前田 萩原(明)
平成29年 (2017年)	2016/10/15,16	2016 日光を巡る旅	日光	ホテル春茂登	有	14	¥ 25,000	華嚴の滝、日光東照宮、二荒山神社等散策	石井 橋本(廣) 森
	2017/4/15	2017 FAR会懇親の夕べ	横浜	馬車道十番館	無	30	¥ 9,000	万々料理の「馬車道十番館」での会食懇親	平野 萩原(明)
平成29年 (2017年)	2017/10/21,22	2018 広島・宮島への旅	宮島	ホテルみや離宮	有		¥ 30,000	厳島神社正式参拝、原爆資料館見学 台風接近で終日雨天のため昼食後解散。	川上 神澤 藤田(透)

## 懇親活動「懐かしの写真集」

FAR会設立時(2001年)から平成22年(2010年)までの「懐かしの写真集」は「FAR会設立10周年記念誌」に掲載されているので、平成23年(2011年)以降の「懐かしい写真」を掲載致します。

(但し、2011年春は東日本大震災で中止となり、本会懇親も中止となり、写真はありません)

### 2012 FAR会懇親の夕べ(横浜・屋形船「すずよし」)



JSRT事務局 女性局員の皆様



2012 箱根を巡る旅「湯元温泉「ホテルおかだ」



参加者一同で書いた色紙

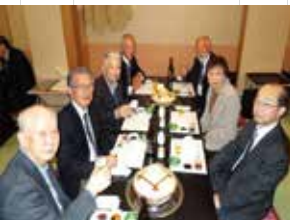
2013 FAR会懇親の夕（横浜・レストラン・スカンジア）



2013 佐賀への旅（佐賀唐津「大望閣」）



2014 FAR会懇親の夕（横浜・岩亀本館）









2016 日光を巡る旅



2017 FAR会懇親の夕（横浜・馬車道十番）



2017 広島・宮島への旅



# FAR会 会員名簿

平成 29 年 11 月 20 日現在

全会員 No.	現会員 No.	名誉会員 No.	氏 名	住 所	入会年月日	退会年月日	逝去年月日	退会事由
1			青木 重秋		2001	2008	2008	死亡
2	1		有馬 宏寧	宮城県仙台市				
3			飯田 昇		2004	2004	2004	死亡
4	2		飯田 泰子	埼玉県川越市				
5	3	9	飯塚 芳郎	神奈川県小田原市				
6	4		石井 勉	埼玉県志木市				
7	5		井手口忠光	福岡県粕屋郡	20171108			
8			石見 義夫			2004	2004	死亡
9			石原 浩			20160816	20160816	死亡
10			石山 忍		2001	2007	2007	死亡
11			伊藤 敏夫		20110401	20160331		
12			伊藤 博		2001	2009		死亡
13	6		伊藤 博美	東京都三鷹市				
14			井上 喜代太		2001	2005		死亡
15	7		稲井 敬	兵庫県西宮市				
16	8		稲津 博	東京都品川区				
17	9		今井 方丈	兵庫県神戸市				
18	10		上田 克彦	京都府京都市				
19	11		内山 幸男	愛知県名古屋	20150717			
20	12		江口 陽一	山形県上山市	20150401			
21			遠藤 俊夫		2002	2005		
22			遠藤 久勝			20100331		死亡
23			大竹 總一郎		2001	2004		
24			大谷 英尚		2001	2007		死亡
25			大西 信造			2005		
26			大屋 正次郎		2001	2006	2006	死亡
27			大塚 昭義			20111005	20111005	死亡
28	13		江島 光弘	東京都八王子市	20120902			
29			岡本 日出夫			20190401		
30	14		小川 敬壽	埼玉県鶴ヶ島市				
31	15		雄川 恭行	滋賀県大津市				
32	16		小口 宏	長野県安曇野市	2010			
33	17		奥村 雅彦	大阪府狭山市	20100410			
34			奥村 彦太郎		2001	2004		
35			小田 澄			2004		

36	18	8	小倉 佐助	京都府長岡京市				
37		1	小山田 即			20130725	2030725	死亡
38	19		加賀 勇治	山形県山形市				
39			垣内 三郎			201202		自主
40	20	12	垣鍔 房穂	兵庫県神戸市				
41			勝浦 秀雄		2001	2008	2010	死亡
42			金尾 啓右		20110401	20160601		自主
43	21		金山 敬典	徳島県名西郡				
44	22		鹿沼 成美	東京都練馬区				
45			神村 篤		2001	2004		
46	23		川上 壽昭	愛媛県東温市				
47	24		川野 誠	愛知県名古屋市	20150717			
48	25		川村 義彦	埼玉県吉川市				
49	26		神澤 良明	兵庫県三木市				
50	27		神田 幸助	埼玉県所沢市				
51	28		漢那 憲聖	京都府京都市				
52	29		菊池 務	北海道札幌市				
53	30		喜多村 道男	東京都世田谷区				
54	31		木内 繁夫	宮城県仙台市				
55			木下 富士美		2004	20100410		自主
56			木村 千明		2001	20100131	20101019	死亡
57	32		草山 泰子	大阪府大阪市				
58			久住 佳三			20140922		自主
59	33		久保 昌博	京都府京都市	20110711			
60	34		熊谷 孝三	福岡県春日市	20130401			
61	35		倉西 誠	富山県富山市				
62	36		厚東 正之	京都府京都市				
63			国井 立志		2002	2004		
64	37		小寺 吉衛	広島県東広島市				
65	38		後藤 正季	大阪府高槻市				
66	39		小松 明夫	島根県出雲市	20120401			
67	40		小水 満	滋賀県近江八幡市				
68			小山 一郎		2001	20110401		自主
69	41		齋藤 一彦	静岡県浜松市				
70			酒井 尚信			20130331		自主
71			坂ノ上 信美		2003	2006		
72			佐々木 正寿			20110926	20110926	死亡

73	42		佐藤 孝司	大阪府大阪市				
74			佐藤 伸雄		2001			
75	43		佐藤 幸光	埼玉県比企郡	20130401			
76	44		真田 茂	石川県金沢市	20150529			
77			篠田 俊治		2003	2009		
78			柴田 英三郎			201103	201103	死亡
79	45		柴田 崇行	北海道札幌市				
80			柴山 孝行			20090531		
81			島田 裕弘			20110126		自主
82	46		清水 久子	京都府京都市				
83			四宮 恵次			20161005	20161005	死亡
84			志村 裕弘			20100501		自主
85			下野 哲勇				20140305	死亡
86			鈴木 譲			2004		
87			砂屋敷 忠			20130515	20130415	死亡
88		6	須山 正一			20101108	20101116	死亡
89	47	11	高尾 義人	長崎県長崎市				
90	48		高橋 司伸	島根県出雲市				
91			高木 雄一朗			2002	2002	死亡
92			段床 嘉晴			20150513		
93	49	15	津田 元久	神奈川県厚木市				
94	50	10	筒井 政光	大阪府茨木市				
95	51		鶴田 重彦	埼玉県久喜市				
96	52		土井 邦雄	群馬県前橋市				
97	53		遠山 坦彦	神奈川県相模原市				
98	54	14	富樫 健	北海道岩見沢市	20141222			
99	55		富吉 司	鹿児島県阿久根市	20120401			
100	56		友光 達志	岡山県岡山市	20110822			
101			豊浦 久明			20090531		
102			長岡 新六			20090331	20090331	死亡
103	57		長澤 弘	新潟県新潟市				
104		4	中間 光雄			20111109	20111109	死亡
105			中村 修			20100131		自主
106			中村 純雄			20100514		自主
107	58		中村 清美	東京都八王子市				
108			中村 幸夫			20150513		
109	59		西谷 源展	京都府亀岡市	20130413			



110		3	西村 信男			20131113	20131113	死亡
111	60		野原 弘基	京都府京都市				
112	61		萩原 明	神奈川県横浜市				
113	62		萩原 康司	北海道札幌市				
114	63		橋田 昌弘	熊本県熊本市	20150909			
115			橋本 宏			20160514	20160514	死亡
116	64		橋本 廣信	茨城県守谷市	20130507			
117		5	服部 繁			2015.0116	2014.11.5	死亡
118	65		花井 耕造	東京都港区	20140509			
119	66		花山 正行	大阪府寝屋川市				
120	67		速水 昭雄	千葉県鴨川市				
121			日浦 康雄		2001	2005		
122			姫野 全象		2001	2005		
123	68		平野 浩志	長野県松本市	20130401			
124	69		平林 久枝	東京都小金井市				
125	70		福西 勝司	大阪府高槻市				
126	71		藤田 卓造	愛知県春日井市				
127	72		藤田 透	京都府京都市				
128	73		堀井 均	京都府京都市	20150911			
129	74		堀田 勝平	岐阜県多治見市				
130	75		本間 龍夫	愛知県名古屋市	20110613			
131	76		前越 久	愛知県名古屋市				
132	77		前田 幸一	東京都墨田区				
133			牧野 純夫		2003	2008		
134			松井 美楯			20190401		
135			松田 秀治		2001	2004		
136		2	松田 義勝			20120112	20120112	死亡
137			松谷 一雄			20140918		自主
138			松本 健		2001	2006	2006	死亡
139	78		松原 馨	東京都狛江市	20160419			
140	79		松本 進	埼玉県蕨市				
141	80		丸山 静雄	長野県安曇野市				
142			丸山 米三		2001	2007		
143	81		三代 忠	栃木県小山市				
144	82		水谷 宏	愛媛県松山市	20150601			
145	83		宮崎 茂	東京都八王子市	20120629			
146	84		宮高 睦	京都府京都市				

147	85		宮地 利明	石川県金沢市				
148	86		村上 長善	大阪府吹田市	20170115			
149	87		森 克彦	埼玉県川越市末				
150			森 信一			20130122	20130122	死亡
151			森 嘉信		2001	2002	2002	死亡
152	88		八木 浩史	兵庫県姫路市				
153	89		梁川 功	宮城県仙台市	20120401			
154			矢野 善四郎			20140513		
155	90		山 哲男	京都府京都市				
156			山岸 一雄				20140501	死亡
157			山下 緑			20120620		自主
158	91		山田 和美	千葉県流山市				
159	92		山田 勝彦	京都府京都市				
160			山本 喜代志			20090531		
161			山本 英明			20160331		
162	93		山本 義憲	兵庫県西宮市				
163	94	7	吉田 弘	京都府京都市				
164			吉富 元康			20100410		自主
165	95		若松 孝司	大阪府茨木市				

死亡退会者

退 会 者

赤字：名誉会員

## 《 FAR 会「規約・細則」集》

# FAR 会「規約・細則」

## ( 1 ) 規 約

### 第 1 条 (名称および事務局)

この会は、FAR 会 (Fellowship for the Advancement of Radiology) といい、事務局を日本放射線技術学会 (以下 JSRT という) 事務局内に置く。

### 第 2 条 (目的)

この会は、会員の親睦を図ることを旨とし、併せて JSRT の発展を支援する。

### 第 3 条 (事業)

この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 情報誌などを通じて会員への情報提供
- (2) 交流会、懇親会など、会員親睦会の開催
- (3) 会員名簿の発行
- (4) 会員動静ならびに、この会に必要な JSRT 情報などの収集

- (5) 学術大会における会員への宿泊斡旋
- (6) 会員の同好を活かすための交流支援
- (7) その他世話人会で定めた事業

#### 第4条（会員）

この会の会員は、会の目的ならびに規約に賛同し、年会費を納めた次の者とする。

##### 「正会員」

- (1) JSRT の会員あるいは元会員で、過去あるいは現在において JSRT の代表理事、理事、監事、委員長、専門部会長、支部長あるいは大会長、大会実行委員長の経験のある者
- (2) JSRT の会員あるいは元会員で、三賞の受賞経緯あるいは宿題報告またはシンポジウム座長経験のある者
- (3) JSRT の永年功労会員
- (4) JSRT の事務局職員あるいは元事務局職員
- (5) その他、本会会員の推薦により世話人会で承認された者

##### 「名誉会員」

正会員であって、米寿（数え歳 88 歳）を過ぎた者で、終身とする。

#### 第5条（会員の扱いと義務）

この会の会員は、年齢、性別、経歴など、過去・現在の如何なる事項に関係なく、同等の扱いを受ける。

2. 年会費は前納とし、原則として会計年度開始後 10 ヶ月以内に当該年度の会費が納入されない場合は、自動的に退会扱いとなる。

3. 名誉会員の年会費は免除とする。ただし、委嘱日（毎年 1 月 1 日）現在における前納会費は原則として返却しない。

#### 第6条（会費ならびに用途）

会員の会費は、年間 2,000 円とする。なお多年度（出来れば 3 年以上）の会費前納が望ましい。

2. 会費の用途は、原則として会員への連絡通信費用、名簿作成費、情報誌などの作成費ならびに「FAR 会の運営に関する細則」に定めるもののみとし、会員への慶弔費は含まないものとする。なお、用途の枠組みは世話人会に委ねる。

#### 第7条（入退会）

新たに会員になろうとする者は、年会費を添えて所定の入会申込書に必要事項を記入のうえ、事務局に届けなければならない。

2. 退会しようとする者は、その旨を事務局に届けなければならない。なお、途中退会の前納会費は原則として返却しない。

#### 第8条（運営組織）

本会の運営組織は次による。なお会の具体的な運営は、別に定める細則による。



#### 第9条（世話人ならびに役員・委員）

この会に 25 名以内の世話人を置き、世話人会を構成する。任期を 4 年とし、再任を妨げない。

2.世話人の内より、会長 1 名、副会長 4 名以内、庶務・会計 1 名、会計監査 1 名を選任する。

3.会長の選任は世話人の互選とする。

4.会長は、副会長、庶務・会計、会計監査を指名する。また、各委員会の長を委嘱する。

5.委員は各委員長が会員の中より選任して、運営委員会の承認を得る。

6.この会に、世話人会の承認を得て名誉会長ならびに、顧問をおくことができる。

7.役員とは、会長ならびに第 9 条 4 項、6 項で定めた者とする。

#### 第 10 条（会議と運営）

世話人会は JSRT 事務局の支援を受けて、当会事業のすべての企画、運営に当る。なお、世話人会は書面、メールなどの通信手段を使って意思決定を行うこともできる。

2.世話人会は原則として年 2 回、春・秋の JSRT 学術大会時期に開催し、総会学術大会時の世話人会を通常総会と位置付ける。

3.会長は会員に対し、年 1 回以上は会の現況等、必要事項を報告しなければならない。

#### 第 11 条（資産、運営経費）

この会の資産、運営経費は次の通りとする。

(1) 年会費

(2) 事業に伴う受益者負担金

(3) 寄付金品、協賛金、広告料など

(4) その他の収入

#### 第 12 条（会計年度）

この会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月末日で終る。

#### 第 13 条（規約の発効と改訂）

この規約は、平成 13 年 4 月 5 日より発効する。

2.この規約は、世話人会の承認を得て改訂することができる。

3.この規約施行についての細則は、世話人会の承認を得て別に定めることができる。

#### 「付 則」

規約の一部改訂（第 8 条） 平成 16 年 10 月 役員会承認

規約の一部改訂（第 8 条） 平成 21 年 4 月 役員会承認

規約の一部改訂（第 4～10、13 条）平成 21 年 10 月役員会承認

規約の一部改訂（第 3、4、6、8～13、13 条）平成 24 年 10 月役員会承認、平成 25 年度より施行

規約の一部改訂（第 7、9 条） 平成 25 年 4 月世話人会承認、即日施行

規約の一部改訂（第 4 条） 平成 26 年 4 月 12 日世話人会承認、即日施行

規約の一部改訂（第 4 条） 平成 27 年 10 月 10 日世話人会承認、即日施行

規約の一部改訂（第 9 条） 平成 29 年 4 月 15 日世話人会承認、即日施行

## **（ 2 ） 運営に関する細則(1) 具体的事項**

### 1. 運営の基本

世話人ならびに役員・委員への通信手段は、相互の通信を含め e-mail を原則とする。ただし受信者



は何等かの形で着信、開封信号を発しなければならない。

## 2. 世話人会

世話人会は、年2回、春・秋のJSRT 学術大会の開催にあわせて開催する。

- 2) 世話人会は、事業報告、収支報告、事業計画、収支予算ならびに世話人・役員の選任、規約・細則の改訂などの重要案件を審議・決定する。

## 3. 運営委員会

運営委員会は、会長または会長より委任された副会長1名以上、編集、総務委員会を代表する者1名以上3名以内、ならびに事務局を代表する者1名以上3名以内の出席をもって成立する。

- 2) 運営委員会は、年2回、原則として春・秋世話人会の中間月に開催する。なお、規約第9条にある世話人の更改年には、春の世話人会終了後直ちに必要議題について開催、審議するものとする。
- 3) 運営委員会の審議案件は、年度事業計画、予算案の立案を含め、春の世話人会で審議決定された事業計画、収支予算などの進捗状況に関する案件のほか、世話人会へ提案する重要案件の事前検討に重点を置く。
- 4) 春の世話人会終了後の運営委員会では、規約9条4に記載の委員会委員を承認するとともに、運営細則(1) 3.1の3に定めた編集副委員長ならびに3.2の3に定めた総務副委員長、懇親会担当、広報担当を承認し、遅滞なく関連業務の遂行を図らねばならない。

### 3.1 編集委員会

編集委員会は、規約第3条(1)の情報誌の編集・発行の責任を持つ。

- 2) 編集委員会の業務は、原則として年3号の情報誌発行を企画し、総務委員会と連携して会員に対する会の現況報告、会員の移動紹介(入退会、名誉会員など)、原稿募集を含めた各号の具体的な編集作業、事務局との連動などを行う。
- 3) 編集委員長は、世話人の中より副委員長を指名し正副の連携を密にすると共に、必要に応じ編集委員会を開催し、運営委員会に報告しなければならない。また、各号の編集のために編集責任者を都度指名することが出来る。

### 3.2 総務委員会

総務委員会は、規約第10条(会議と運営)に定める如く、JSRT 事務局の支援と編集委員会と連動して、世話人会、役員会、運営委員会などの運営を含め当る。

- 2) 総務委員会は、規約第3条(2)の交流会、懇親会など、会員親睦会の開催企画(代表幹事推薦)の立案、推進を主体として、FAR 会の活性化のための緒企画を立案、推進する。  
更に、会員親睦会など、本会の重要業務の集約、顛末報告を担当する。
- 3) 総務委員長は、世話人の中より副委員長を指名し正副の連携を密にすると共に、前項の事業推進するため、総務委員の中より懇親会担当、広報担当を指名し、その業務を統括する。なお懇親会代表幹事は、世話人会の承認のもと FAR 会世話人の中より選任することを原則とする。
- 4) 総務委員会は、JSRT 総務委員会と連動して本会の広報につとめると共に、事務局長ならびに庶務・会計担当からの情報を定期的に入手・把握し、必要により情報誌ならびにメーリングリスト(ML)を用いて会員に情報を伝達する責務を持つ。

## 4. 事務局

本会の庶務・会計業務は、JSRT 事務局に委託する。

- 2) 事務局の業務は、会員現況の把握、会の資産管理、会費納入に関する事項、情報誌・会員名など印刷、発送、新入会員の勧誘事務、本会資料・記録の保存、その他、役員会あるいは運営委員会で定められた庶務・事務的事項のすべてを含むものとする。

## 5. 担務

この細則に関する事項の担務は、総務委員長とする。

付 則

1. この細則は、世話人会の議決により改訂することができる。
2. この細則は、平成 21 年 10 月 24 日開催の役員会の議決により即日発効する。

( 付 記 )

細則の一部改訂：平成 25 年 4 月 13 日、即日施行

## **( 3 ) 運営に関する細則(2) 経理処理**

### **1. 適用範囲**

この細則は、規約第 6 条(会費ならびに使途) 2.ならびに第 10 条(会議と運営)5.に従い、「FAR 会の運営に関する細則(その 1 具体的事項)」の運用に連動して適用する。

### **2. 役員会の経費**

役員会に関する経費は、役員の参加費を含めてすべて自己負担とする。ただし、開催時間の関係から食事を必要とする場合は、会より現物あるいは相当額を提供する。

### **3. 運営委員会の経費**

運営委員会に参加する経費は、参加者の現住地近隣の JR 駅より会議開催地近隣の JR 駅間の乗車代特急券代の実費のみを支給し、その他の費用は支給しない。

### **2) 前項の実費は参加者の自己申告とし、会議開催 10 日以前に所定の様式に記載のうえ、総務委員長にメール申告する。**

### **3) 1 会議、出席者 1 名当たり 1,000 円を食事代として支給する。なお、会議に宿泊を要する場合でも宿泊代は自己負担とする。**

### **3.1 編集委員会**

各号の編集のための費用として、編集経費として 1 号当たり 10,000 円を編集委員長に支給するがその按分は編集委員長に委ねる。

### **3.2 総務委員会**

委員会業務の遂行のため、JSRT 事務局への交通費は、本人から委員長への申請に基づき実費を支給する。

### **2) 本会の広報に関する費用は、事務局費用の該当科目にて充当する。**

### **3) 会員懇親会の集約、顛末のための費用は、懇親会支出費中に包含するものとする。**

### **4) その他の経費は、すべて自己負担とする。**

### **4. 事務局の経費**

本会事務局の経費は、事務用品費、会員への連絡通信費用、名簿作成費、情報誌などの作成費など通信費用、名簿作成費、情報誌などの作成費などの作成費を含め、事務局業務の運営のためのすべてを含むものとする。

### **5. 担務**

この細則に関する事項の担務は、総務委員長とする。

付 則

1. この細則は、世話人会の議決により改訂することができる。
2. この細則は、平成 21 年 10 月 24 日開催の役員会の議決により即日発効する。

( 付記 )

細則の一部改訂：平成 25 年 4 月 13 日、即日施行

《情報誌創刊からの軌跡》

FAR会「巻頭言及びご案内原稿記録」

Vol.	テーマ	役職名	執筆者	ページ数	発行者	編集委員長	編集担当者	発行日	
1	21世紀の新しい交流の場...FAR会	会長	橋本 宏	14	橋本 宏	小川 敬壽	小川 敬壽	平成13年9月20日	モノクロ
2	FAR 会の楽しい催し(ご案内)	世話人	後藤正季	12	々	々	小川 敬壽	平成14年1月31日	々
3	神戸でのFAR会発足記念催し	会長	橋本 宏	12	々	々	小川 敬壽	平成14年5月15日	々
4	古代浪漫の宝庫出雲での再会を楽しみに	副会長	川上壽昭	12	々	々	四宮 恵次	平成14年8月30日	々
5	(FAR 会の楽しい催し)	世話人	四宮恵次	12	々	々	前越 久	平成15年1月15日	々
6	ごあいさつ	会長	橋本 宏	14	々	々	木村 千明	平成15年5月15日	々
7	皆さんあってのFAR会	副会長	山田勝彦	12	々	々	山田 和美	平成15年9月15日	々
8	FARの楽しみ	副会長	川上壽昭	12	々	々	小川 敬壽	平成16年1月15日	々
9	FAR会で楽しく	会長	橋本 宏	12	々	々	前越 久	平成16年5月15日	々
10	京都へのお誘い	副会長	山田勝彦	10	々	々	小川 敬壽	平成16年9月15日	々
11	FARの楽しみ	副会長	川上壽昭	16	々	々	山田 和美	平成17年1月15日	カラー
12	FAR会の楽しみ	会長	橋本 宏	12	々	々	小川 敬壽	平成17年5月15日	々
13	「薩摩の集い」への誘い	副会長	山田勝彦	12	々	々	山田 和美	平成17年9月15日	々
14	新しい年を迎えて	副会長	川上壽昭	12	々	々	小川 敬壽	平成18年1月15日	々
15	いかがお過ごしですか	会長	橋本 宏	12	々	山田 和美	山田 和美	平成18年5月15日	々
16	FAR会発足5年を振り返って	副会長	山田勝彦	12	々	々	山田 和美	平成18年9月15日	々
17	亥年のごあいさつ	副会長	川上壽昭	12	々	々	小川 敬壽	平成19年1月15日	々
18	今年の雪は少なかったようです	会長	橋本 宏	12	々	々	山田 和美	平成19年5月15日	々
19	悲しいことが続きます	副会長	山田勝彦	12	々	々	小川 敬壽	平成19年9月15日	々
20	神宮の荘厳さに心洗われました	副会長	川上壽昭	12	々	々	山田 和美	平成20年1月15日	々
21	また春が巡ってまいりました	会長	橋本 宏	14	々	々	小川 敬壽	平成20年5月15日	々
22	真夏の夜の思い出	副会長	山田勝彦	12	々	々	山田 和美	平成20年9月15日	々
23	丑年を迎えて	副会長	川上壽昭	12	々	々	小川 敬壽	平成21年1月15日	々
24	風薫る頃となりました	会長	橋本 宏	12	々	々	山田 和美	平成21年5月15日	々
25	FAR会の活性化を願っております	副会長	山田勝彦	12	々	々	小川 敬壽	平成21年9月15日	々
26	FAR会業務のスムーズなバトンタッチを願って	副会長	四宮恵次	12	々	々	山田 和美	平成22年1月15日	々
27	辛さと悲しみをこらえて	副会長	川上壽昭	16	々	々	小川 敬壽	平成22年5月15日	々
28	初秋の候	会長	橋本 宏	12	々	々	伊藤 博美	平成22年9月15日	々
29	FAR会も今年は10周年を迎えます	副会長	山田勝彦	12	々	々	森 克彦	平成23年1月15日	々
30	はじめに	副会長	川上壽昭	12	々	々	石井 勉	平成23年5月15日	々
31	10周年記念事業へのご協力に、感謝、感謝。	副会長	四宮恵次	12	々	々	伊藤 博美	平成23年9月15日	々
32	今年は平穏無事な年でありますように	会長	橋本 宏	14	々	々	森 克彦	平成24年1月15日	々
33	元気なFAR会を期待しています	副会長	山田勝彦	14	々	々	石井 勉	平成24年5月15日	々
34	お元気ですか～箱根でお過ごしでしょう～	副会長	川上壽昭	12	々	々	森 克彦	平成24年9月15日	々
35	年寄りの経験と頭脳を活かし、元気を出そう	副会長	四宮恵次	12	々	々	石井 勉	平成25年1月15日	々
36	2代目会長就任のご挨拶	会長	山田勝彦	14	山田勝彦	森 克彦	森 克彦	平成25年5月15日	々
37	唐津でお過ごししょう！！	副会長	川上壽昭	12	々	々	石井 勉	平成25年9月15日	々
38	FAR会の絆	副会長	速水昭雄	14	々	々	橋本 廣信	平成26年1月15日	々
39	秋の北海道が楽しみです	会長	山田勝彦	12	々	々	森 克彦	平成26年5月15日	々
40	異常気象の昨今、如何お過ごしですか？	副会長	平林久枝	16	々	々	石井 勉	平成26年9月15日	々
41	年のはじめに	副会長	川上壽昭	14	々	々	橋本 廣信	平成27年1月15日	々
42	秋の金沢が楽しみです	会長	山田勝彦	16	々	々	森 克彦	平成27年5月15日	々
43	FAR会の伝承と発展について想うこと	副会長	四宮恵次	14	々	々	石井 勉	平成27年9月15日	々
44	新たな年を迎えての思い	副会長	速水昭雄	12	々	々	橋本 廣信	平成28年1月15日	々
45	千年の都、古都京都とは	会長	山田勝彦	12	々	々	森 克彦	平成28年5月15日	々
46	3代目会長に就任にあたって	会長	川上壽昭	16	川上壽昭	々	石井 勉	平成28年9月15日	々
47	15周年を迎えるFAR会のこの頃	副会長	平林久枝	12	々	々	橋本 廣信	平成29年1月15日	々④
48	FAR会は生涯現役の場	会長	川上壽昭	16	々	々	森 克彦	平成29年5月15日	々
49	16年目のFAR会	副会長	藤田 透	8	々	々	石井 勉	平成29年9月15日	々
50	情報誌50号発刊を祝して	会長	川上壽昭	70	々	々	橋本 廣信	平成30年1月15日	々

④第47号よりカラーイラストの導入

# FAR情報誌「特集企画」一覧表

Vol.	テーマ	企画者名	執筆者1	執筆者2	執筆者3	執筆者4	執筆者5	執筆者6	執筆者7	執筆者8	執筆者9	執筆者10
1												
2												
3												
4												
5	私の健康法	前越 久	前越 久	四宮 恵次	厚東 正之	稲津 博	勝浦 秀雄	大塚 昭義	丸山 米三	柴山 孝行	岡本 日出夫	喜多村 道男
6	私の健康法・長寿の秘訣	木村 千明	大竹 雄一郎									
7	定年を過ぎてからのパソコンライフ	山田 和美	國井 立志	砂屋 敷忠	段床 嘉晴	速水 昭雄	平林 久枝	森 克彦				
8	食い道楽...食べるもよし、食べさせるもよし...	小川 敬壽	遠藤 俊夫	久住 佳三	斎藤 一彦	島田 裕弘	清水 久子	前越 久	山本 義憲			
9	今だから話せるとやり体験	前越 久	牧野 純夫	後藤 正季	小山 一郎	鹿沼 成美						
10	今だから話せる楽しい学会裏話	小川 敬壽	四宮 恵次	砂屋 敷忠								
11	長寿の秘訣...いつまでも元気に過ごすために...	後藤 正季	井上 喜代太	岡本 日出夫	小倉 佐助	勝浦 秀雄	津田 元久	服部 繁				
12	友...この得難き人びと...	木村 千明	有馬 宏幸	大塚 昭義	垣内 三郎	久住 佳三	厚東 正之	柴田 崇行	篠田 俊治	萩原 康司	松本 健	
13	楽しい語らいの夕べ	倉西 誠	金山 敬典	木内 繁夫	篠田 俊治	高尾 義人	山岸 一雄					
14	ここが良かった我が職場	前越 久	有馬 宏幸	大塚 昭義	段床 嘉晴	吉田 弘	若松 孝司					
15	今 楽しいこと	小川 敬壽	飯塚 芳郎	加賀 勇治	鹿沼 成美	中村 純雄	前田 幸一	山本 義憲	吉富 元康			
16	心の宝物	野原 弘基	草山 泰子	志村 元久	松本 進	山本 英明						
17	私の趣味	加賀 勇治	四宮 恵次	木内 繁夫	萩原 明	松本 進	清水 久子	平林 久枝	飯山 清美			
18	私のお気に入り	福西 勝司	厚東 正之	後藤 正季	清水 久子	中村 純雄						
19	無題	山 哲男	川上 壽昭	佐藤 孝司	土井 邦雄	藤田 透	松井 美穂					
20	心に残る旅の思い出	柴田 崇行	長澤 弘	中間 光雄	萩原 康司	山田 和美						
21	終戦から63年...	清水 久子	神田 幸助	島田 裕弘	砂屋 敷忠	高尾 義人	中村 修	吉田 弘				
22	最近の私	松井 美穂	大塚 昭義	加賀 勇治	草山 泰子	萩原 明	藤田 透	前越 久				
23	この頃、腹がたつこと・嬉しかったことなど	平林 久枝	石井 勉	喜多村 道男	清水 久子	鶴田 重彦	中村 純雄	前田 幸一	山本 義憲			
24	あいたい...	飯山 清美	神澤 良明	倉西 誠	後藤 正季	藤田 透	松井 美穂					
25	私のこだわり	草山 泰子	稻井 敬	木村 千明	久住 佳三	佐藤 孝司	萩原 明	吉富 元康				
26	吐露	石井 勉	飯山 清美	神澤 良明	草山 泰子	佐々木 正寿	森 克彦					
27	患者を体験してみて	藤田 透	大塚 昭義	川上 壽昭	斎藤 一彦	前越 久	松井 美穂					
28	私のお宝	神澤 良明	今井 方丈	漢邦 憲聖	中村 幸夫	前田 幸一	宮地 利明					
29	私の健康法		有馬 宏幸	石井 勉	神澤 良明	倉西 誠						
30	道程	森 克彦	漢邦 憲聖	平林 久枝	福西 勝司							
31	私の隠れ家	伊藤 博美	小松 明夫	遠山 坦彦	前越 久							
32	私のお薦め情報	速水 昭雄	金尾 啓右	木内 繁夫	喜多村 道男	雄川 恭行						
33	私のひととき	今井 方丈	遠山 坦彦	前田 幸一	宮地 利明							
34	絆-再考	富吉 司	神澤 良明	清水 久子	前越 久							
35	ありがとうという感謝の心	梁川 功	石井 勉	加賀 勇治	砂屋 敷忠							
36	心に残る写真機(カメラ)	山田 和美	上田 克彦	草山 泰子								
37	心に残る写真機(カメラ)	山田 和美			金尾 啓右	八木 浩史	前越 久	山田 勝彦				
38	心に残る写真機(カメラ)	山田 和美							四宮 恵次	遠山 坦彦	速水 昭雄	
39	私の時計	森 克彦	山田 和美	森 克彦								
40	人生におけるターニングポイント	森 克彦	金尾 啓右	森 克彦								
41	人生におけるターニングポイント(続編2)	森 克彦	金尾 啓右									
42	人生におけるターニングポイント(続編3)	森 克彦	金尾 啓右									
43	散策の小径「写真で巡る散策路」	森 克彦	森 克彦									
44	休載											
45	休載											
46	休載											
47	休載											
48	休載											
49	私のふらり旅「夏」	石井 勉	森 克彦									
50	休載											



# FAR情報誌「連載」一覧表

連	載	名	都道府県名	テ	マ	所属都市名	執筆者名
1							
2							
3							
4							
5	有酸素運動とは？ その1	その効用	山口県			山口市	大塚 昭 義
6	有酸素運動(その2) - ウォーキングについて -		山口県			山口市	大塚 昭 義
7	私の「山形そば風土記」その1		山形県			仙台市	木内 繁 夫
8	私の「山形そば風土記」その2		山形県			仙台市	木内 繁 夫
9	休載						
10	四国八十八ヶ所霊場巡り		四国			高知市	遠山 坦 彦
11	四国八十八ヶ所霊場巡り		四国			高知市	遠山 坦 彦
12	四国八十八ヶ所霊場巡り		四国			高知市	遠山 坦 彦
13	四国八十八ヶ所霊場巡り		四国			高知市	遠山 坦 彦
14	四国八十八ヶ所霊場巡り		四国			高知市	遠山 坦 彦
15	四国八十八ヶ所霊場巡り		四国			高知市	遠山 坦 彦
16	四国八十八ヶ所霊場巡り		四国			高知市	遠山 坦 彦
17	四国八十八ヶ所霊場巡り		四国			高知市	遠山 坦 彦
18	四国八十八ヶ所霊場巡り		四国			高知市	遠山 坦 彦
19	四国八十八ヶ所霊場巡り		四国			高知市	遠山 坦 彦
20	四国八十八ヶ所霊場巡り		四国			高知市	遠山 坦 彦
21	四国八十八ヶ所霊場巡り		四国			高知市	遠山 坦 彦
22	四国八十八ヶ所霊場巡り		四国			高知市	遠山 坦 彦
23	ご当地自慢-その1-		愛媛県	道後温泉		愛媛県温泉郡	川上 壽 昭
24	ご当地自慢-その1-		島根県	島根と出雲大社		愛媛県温泉郡	川上 壽 昭
25	ご当地自慢-その2-		島根県	島根と出雲大社		愛媛県温泉郡	川上 壽 昭
26	ご当地自慢-その1-		愛知県	名古屋の巻		名古屋市	前越 久
27	ご当地自慢-その2-		愛知県	名古屋の巻		名古屋市	前越 久
28	ご当地自慢		宮城県	わが街 仙台		仙台市	木内 繁 夫
29	ご当地自慢		大阪府	わが街 高槻		高槻市	後藤 正 季
30	ご当地自慢		千葉県	千葉県南房総		鴨川市	速水 昭 雄
31	ご当地自慢		北海道	わが街 札幌		札幌市	萩原 健 司
32	ご当地自慢		兵庫県	三木市		三木市	神澤 良 明
33	ご当地自慢		徳島県	わが街 徳島		徳島市	八木 浩 史
34	ご当地自慢		富山県	富山の鱒すし		富山市	倉西 誠
35	ご当地自慢		富山県	寒ブリ		富山市	倉西 誠
36	ご当地自慢		富山県	ホタルイカ		富山市	倉西 誠
37	お国自慢		島根県	人物考		名古屋市	藤田 卓 造
38	ご当地自慢		富山県	立山黒部アルペンルート		富山市	倉西 誠
39	お国自慢		鹿児島県	生まれ故郷 阿久根		鹿児島市	富吉 司
40	ご当地自慢		福岡県	城下町の風情漂う人吉探訪		人吉市	佐藤 幸 光
41	ご当地自慢		山形県	わが街 山形		山形市	加賀 勇 治
42	ご当地自慢		北海道	札幌・人情・すすき野事情		札幌市	菊池 務
43	休載						
44	ご当地自慢		長野県	我が町 松本		松本市	平野 弘 志
45	ご当地自慢		山口県	ご当地自慢と書いてながら自分自慢や我が家自慢も		宇部市	上田 克 彦
46	ご当地自慢		東京都	おとなのワンダーランド築地市場		狛江市	松原 馨
47	ご当地自慢		京都府	明智光秀ゆかりの丹波亀山城の城下町		亀岡市	西谷 源 展
48	ご当地自慢		愛知県	名古屋の「ご当地自慢」(マイナーな自慢)		名古屋市	本間 龍 夫
49	ご当地自慢		三重県	...祈りの道 果てしなく...		大津市	雄川 恭 行
50	休載						

## 50号記念誌掲載原稿一覧表

氏 名	頁 数	テーマ・内容等
川 上 壽 昭	3	情報誌50号発刊を祝して
小 倉 明 夫	1	FAR会情報誌50号記念誌発刊を祝して
山 田 勝 彦	1	祝 辞 (FAR会誌発刊 50号を記念して)
速 水 昭 雄	1	「FAR会の発足と発展に尽くして頂いた先輩と故人に感謝して」
平 林 久 枝	1	年を重ねて思うこの頃
藤 田 透	1	FAR会情報誌50号に感謝して
山 哲 男	1	FAR会情報誌 通巻第50号発行によせて
前 越 久	1	FAR会情報誌のページを追って
今 井 方 丈	1	雑 感
江 口 陽 一	1	韓国との交流について
小 水 満	1	FAR会情報誌50号を記念して思うこと
草 山 泰 子	1	50号記念誌に寄せて
佐 藤 幸 光	1	FAR会 50号記念誌 発刊に寄せて～ インターナショナル・セッション回顧録 ～
冨 吉 司	1	前越久先生と木村千明先生
平 野 浩 志	3	「梅垣先生に集う会」の思い出(前編)
藤 田 卓 造	1	記憶・記録とは???
堀 田 勝 平	1	木村千明先生と私そしてFAR会
前 田 幸 一	1	FAR会そぞろ歩き(人との出会い)
梁 川 功	0.5	第46回秋季学術大会 「震災から7年、復興と放射線技術学」 日本三景松島と震災復興視察の旅
加 賀 勇 治	1	高速バス通勤雑感
漢 那 憲 聖	0.5	FAR会入会時のエピソード
小 松 明 夫	1	50号記念誌に寄せて
遠 山 坦 彦	1	緩やかに時が移りゆく毎日が・・・時に乱れるトキも
土 井 邦 雄	1	退職後には何をすべきか? 人生最後の努力への提案
西 谷 源 展	1	「50号記念誌に寄せて」 学会委員拝命のころ
福 西 勝 司	1	カラー化
松 原 馨	1	50号記念誌に寄せて
宮 地 利 明	1	50号記念誌に寄せて: 私もpay it foreword(恩送り)することを誓います!
山 本 義 憲	2	聖護院御殿壮花見の宴
錦 成 郎	1	JRC2018ご挨拶
江 島 光 弘	1	横浜赤レンガ倉庫で懇親のひと時を
神 澤 良 明	1	台風が迫ってくる! 平成29年度FAR会秋の旅行
総 務 委 員 会	2	定期報告
編 集 委 員 会	1	定期報告
実 行 委 員 長	1	《秋季学術大会報告》第45回日本放射線技術学会秋季学術大会を振り返って
小 川 敬 壽	1	情報誌編集の思い出 「創刊号の頃」
山 田 和 美	1	編集委員長を引き継いでみて
森 克 彦	5	PCにて「三交会」を検索してみると!
石 井 勉	1	情報誌編集の思い出
江 島 光 弘	1	FAR会員の情報誌
橋 本 廣 信	1	FAR会情報誌の編集に携わって
宮 高 睦	2	情報誌FAR 50号発行に寄せて
総 務 委 員 会	14	FAR会発足からの軌跡
編 集 委 員 会	4	情報誌創刊からの軌跡
編集担当者他	2	編集の小窓他
	72	* 頁数は凡その数です

## 《編集の小窓》

新年おめでとうございます。FAR 会情報誌はおかげさまで、今回、記念誌 50 号をお届けすることとなりました。創刊号が平成 13 年 9 月に発刊され、はや 17 年目となります。多くの方々が発刊に向けて尽力し、会員のご協力により継続してきた結果であります。その記念すべき創刊号の発行人・初代の橋本宏会長が、ご挨拶で情報誌の必要性和役割について、“共通の話題や趣味を具体的な活動に繋げる”21 世紀の新しい交流の場にしたいと述べられておりますが、これに関しては情報誌が大きな役割を果たしていると思います。さて、本誌では、諸先輩方の資料から FAR 会の前身である明治会・三交会からの歴史的経緯についても掲載されており、今後の 100 号・200 号の記念誌等の資料として、大いに活用されて行くものと信じています。なお、本年は会員の高齢化及び減少対策について、抜本的な検討が必要と思われます。また、情報誌を旨く活用できるように会員の皆様のご協力をお願いします。

最後に、執筆を快くお引き受け下さいました皆様に編集委員一同、心からお礼申し上げます。

会員の皆様、第 74 回総会学術大会における「2018 FAR 会の懇親の夕べ」横浜でお会いしましょう!!

橋本廣信、記

## FAR 情報誌 No.50 (非売品)

発行日 平成 30 年 1 月 15 日

発行者 川上壽昭

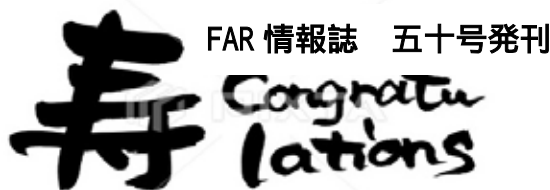
編集委員会 森 克彦 (委員長)

石井 勉 江島光弘

橋本廣信

山田和美 (顧問)

森：連絡先



情報誌 No.1・5・10・15・20・25・30・35・40・45 の表紙：今昔



此処に五十号記念誌が会員並びに関係各位のご協力のもと、発刊できたことに感謝します。

平成三十年一月十五日  
編集委員長 森 克彦

FAR 会情報誌創刊五十号記念誌  
発行日：平成三十年一月十五日

FAR 会  
Fellowship for the Advancement of Radiology  
事務局：公益社団法人 日本放射線技術学会事務局内